

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン コマザワダイガク 学校法人 駒澤大学								
フリガナ大学の名称	コマザワダイガクダイガクイン 駒澤大学大学院 (Komazawa University Graduate School)								
大学本部の位置	東京都世田谷区駒沢1丁目23番1号								
大学の目的	駒澤大学大学院は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、学部における一般教育並びに専門教育の基礎の上に高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>人文科学研究科仏教学専攻は1952（昭和27）年に設置され、以来多くの人材を輩出してきた。今回、人文科学研究科から独立し、より一層専門性の高い研究指導並びに教育指導を施すことを通して、建学の理念である仏教の教えと禅の精神を根幹とし、専門的な研究能力の開発・促進とその社会的実践・応用を通して、文化の進展と人類の福祉に寄与する人材を養成する。</p> <p>修士課程においては、仏教学における精深かつ高度で専門的な知識を有し、文化の進展と人類の福祉に寄与する人材を養成する。</p> <p>博士後期課程においては、修士課程の研究成果を基礎として、研究テーマに関するより専門的な第一次資料を学術的に考究し、深い学識、幅広い教養そして高度な社会的倫理性を兼ね備えることによって、専門性の高い教育・研究機関において十全に職務を果たし得る人材を養成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 仏教学部 禅学科 仏教学科
	仏教学研究科 [Graduate School of Buddhist Studies]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	東京都世田谷区駒沢1丁目23番地1号	
	仏教学専攻 (修士課程) [Program in Buddhist Studies]	2	20	—	40	修士 (仏教学) 【Master of Buddhist Studies】	平成32年4月 第1年次		
	仏教学専攻 (博士後期課程) [Program in Buddhist Studies]	3	5	—	15	博士 (仏教学) 【Doctor of Buddhist Studies】	平成32年4月 第1年次		
計		25	—	55					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>人文科学研究科 仏教学専攻 修士課程（廃止） (△20) 仏教学専攻 博士後期課程（廃止） (△5) ※平成32年4月学生募集停止</p> <p>医療健康科学部 診療放射線技術科学科[入学定員増] (2) (平成31年5月届出予定) [3年次編入学定員減] (△2) (平成31年5月届出予定)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	仏教学研究科 仏教学専攻 修士課程	20科目	21科目	0科目	41科目	30単位			
仏教学研究科 仏教学専攻 博士後期課程	15科目	15科目	0科目	30科目	12単位				

教	新	設	分	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
					教授	准教授	講師	助教	計		助手
教	新	設	分	仏教学研究科 仏教学専攻 修士課程	14 (16)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (18)	0 (0)	3 (3)
				仏教学研究科 仏教学専攻 博士後期課程	10 (13)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	2 (2)
				計	14 (16)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (18)	0 (0)	3 (3)
員	組	既	の	人文科学研究科 国文学専攻 修士課程	8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
				人文科学研究科 国文学専攻 博士後期課程	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
				人文科学研究科 英米文学専攻 修士課程	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)
				人文科学研究科 英米文学専攻 博士後期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
				人文科学研究科 地理学専攻 修士課程	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)
				人文科学研究科 地理学専攻 博士後期課程	8 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	0 (0)
				人文科学研究科 歴史学専攻 修士課程	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	17 (17)
				人文科学研究科 歴史学専攻 博士後期課程	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
				人文科学研究科 社会学専攻 修士課程	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
				人文科学研究科 社会学専攻 博士後期課程	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
設	の	既	の	人文科学研究科 心理学専攻 修士課程	4 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	7 (7)
				人文科学研究科 心理学専攻 博士後期課程	2 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (3)	0 (0)	0 (0)
				経済学研究科 経済学専攻 修士課程	17 (17)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	3 (3)
				経済学研究科 経済学専攻 博士後期課程	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
				商学研究科 商学専攻 修士課程	16 (16)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	7 (7)
				商学研究科 商学専攻 博士後期課程	16 (16)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
				法学研究科 公法学専攻 修士課程	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
				法学研究科 公法学専攻 博士後期課程	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
				法学研究科 私法学専攻 修士課程	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
				法学研究科 私法学専攻 博士後期課程	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
設	の	既	の	経営学研究科 経営学専攻 修士課程	28 (28)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
				経営学研究科 経営学専攻 博士後期課程	13 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
				医療健康科学研究科 診療放射線学専攻 修士課程	9 (9)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	10 (10)
				医療健康科学研究科 診療放射線学専攻 博士後期課程	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
				グローバル・メディア研究科 グローバル・メディア専攻 修士課程	11 (11)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	2 (2)
				グローバル・メディア研究科 グローバル・メディア専攻 博士後期課程	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
				法曹養成研究科 法曹養成専攻	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	37 (37)
				計	148 (149)	40 (40)	13 (13)	0 (0)	201 (202)	0 (0)	86 (86)
				合 計	162 (165)	43 (42)	13 (13)	0 (0)	218 (220)	0 (0)	89 (89)
				教員以外の職員概要	職 種				専 任		兼 任
事 務 職 員					197 (197)		52 (52)		249 (249)		
技 術 職 員					6 (6)		30 (30)		36 (36)		
図 書 館 専 門 職 員					14 (14)		3 (3)		17 (17)		
そ の 他 の 職 員					0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計				217 (217)		85 (85)		302 (302)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	81,890.46㎡	0 ㎡	0 ㎡	81,890.46㎡				
	運 動 場 用 地	81,709.27㎡	0 ㎡	0 ㎡	81,709.27㎡				
	小 計	163,599.73㎡	0 ㎡	0 ㎡	163,599.73㎡				
	そ の 他	87,510.50㎡	0 ㎡	0 ㎡	87,510.50㎡				
	合 計	251,110.23㎡	0 ㎡	0 ㎡	251,110.23㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		118,720.09㎡ (118,720.09㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	118,720.09㎡ (118,720.09㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	108 室	43 室	65 室	16 室 (補助職員13人)	0室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		仏教学研究科 仏教学専攻 修士課程		17 室					
		仏教学研究科 仏教学専攻 博士後期課		12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む	
	仏教学研究科仏教学専攻	170,690〔 33,351〕 (170,690〔 33,351〕)	1,942〔 483〕 (1,942〔 483〕)	1,100〔 1,100〕 (1,100〔 1,100〕)	484,287 (484,287)	10,572 (10,572)	— (—)		
	計	170,690〔 33,351〕 (170,690〔 33,351〕)	1,942〔 483〕 (1,942〔 483〕)	1,100〔 1,100〕 (1,100〔 1,100〕)	484,287 (484,287)	10,572 (10,572)	— (—)		
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	10,036 ㎡		1,349 席		910,000冊				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	6,646 ㎡		—						
経 費 の 見 積 り 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・教員1人当たり研究費等については教育研究活動費。 ・共同研究費については大学全体。 ・図書費については仏教学部と共用。電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 本大学卒業(修了)者(M) 他大学卒業(修了)者(M) 本大学卒業(修了)者(D) 他大学卒業(修了)者(D)
		教員1人当たり研究費等	420千円	420千円	420千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等	8,000千円	8,000千円	8,000千円	—千円	—千円	—千円	
		図書購入費	9,230千円	9,230千円	9,230千円	9,230千円	—千円	—千円	
	設備購入費	481千円	439千円	875千円	962千円	—千円	—千円		
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		790千円	670千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
		950千円	700千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
		790千円	670千円	670千円	—千円	—千円	—千円		
	950千円	700千円	700千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			入学検定料収入、特別寄付金収入、国庫補助金収入、資産運用収入、雑収入等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	駒澤大学大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	人文科学研究科(修士課程)	年	人	年次	人		倍		東京都世田谷区駒沢1丁目23番地1号
	仏教学専攻	2	20	—	40	修士(仏教学)	0.65	昭和27年度	
	国文学専攻	2	5	—	10	修士(国文学)	0.4	昭和27年度	
	英米文学専攻	2	5	—	10	修士(英米文学)	0.1	昭和41年度	
	地理学専攻	2	5	—	10	修士(地理学)	0.7	昭和41年度	
	歴史学専攻	2	15	—	30	修士(歴史学)	1	昭和41年度	
	社会学専攻	2	5	—	10	修士(社会学)	0.86	昭和27年度	
	心理学専攻	2	10	—	20	修士(心理学)	0.6	昭和43年度	
	1								
	経済学研究科(修士課程)	2	10	—	20	修士(経済学)	0.35	昭和42年度	
	商学研究科(修士課程)	2	15	—	30	修士(商学)	1.03	昭和41年度	同上
	法学研究科(修士課程)	2	5	—	10	修士(法学)	0.1	昭和43年度	同上
	公法学専攻	2	5	—	10	修士(法学)	0.2	昭和43年度	同上
私法学専攻	2	5	—	10	修士(法学)	0	昭和43年度	同上	
経営学研究科(修士課程)	2	10	—	20	修士(経営学)	0.35	昭和48年度	同上	
経営学専攻	2	10	—	20	修士(経営学)	0.35	昭和48年度	同上	
医療健康科学研究科(修士課程)	2	14	—	28	修士(保健衛生学)	0.82	平成19年度	同上	
診療放射線学専攻	2	14	—	28	修士(保健衛生学)	0.82	平成19年度	同上	

既設大学等の状況	グローバル・メディア研究科 (修士課程) グローバル・メディア専攻	2	10	—	20	修士 (メディア学)	0.6	平成25年度	同上	
	人文科学研究科 (博士課程) 仏教学専攻	3	5	—	15	博士 (仏教学)	0.46	昭和32年度	同上	
	国文学専攻	3	2	—	6	博士 (国文学)	0	昭和42年度		
	英米文学専攻	3	2	—	6	博士 (英米文学)	0	昭和46年度		
	地理学専攻	3	2	—	6	博士 (地理学)	0.16	昭和43年度		
	歴史学専攻	3	6	—	18	博士 (歴史学)	0.27	昭和43年度		
	社会学専攻	3	2	—	6	博士 (社会学)	0	昭和52年度		
	心理学専攻	3	2	—	6	博士 (心理学)	0.5	昭和45年度		
	経済学研究科 (博士課程) 経済学専攻	3	2	—	6	博士 (経済学)	0	昭和44年度		同上
	商学研究科 (博士課程) 商学専攻	3	2	—	6	博士 (商学)	0.66	昭和43年度	同上	
	法学研究科 (博士課程) 公法学専攻	3	2	—	6	博士 (法学)	0	昭和45年度	同上	
	私法学専攻	3	2	—	6	博士 (法学)	0	昭和45年度		
	経営学研究科 (博士課程) 経営学専攻	3	2	—	6	博士 (経営学)	0.16	昭和52年度	同上	
	医療健康科学研究科 (博士課程) 診療放射線学専攻	3	3	—	9	博士 (保健衛生学)	0.22	平成22年度	同上	
	グローバル・メディア研究科 (博士課程) グローバル・メディア専攻	3	3	—	9	博士 (メディア学)	1.22	平成27年度	同上	
	法曹養成研究科 法曹養成専攻	3	36	—	108	法務博士 (専門職)	0.38	平成16年度	東京都世田谷区駒沢2丁目12番5号	
	既設大学等の状況	大 学 の 名 称 駒澤大学								
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
仏教学部 禅学科		4年	80人	5人	325人	学士 (禅学)	1.01 1.01	昭和24年度	東京都世田谷区駒沢1丁目23番地1号	平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員75→80、編入学定員15→5)
仏教学科		4	112	7	455	学士 (仏教学)	1.01	昭和24年度	同上	平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員105→112、編入学定員21→7)
文学部 国文学科		4	134	7	541	学士 (国文学)	1.1 1.1	昭和24年度		平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員125→134、編入学定員25→7)
英米文学科		4	134	7	541	学士 (英米文学)	1.05	昭和24年度		平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員125→134、編入学定員25→7)
地理学科 地域文化研究専攻		4	69	5	282	学士 (地理学)	1.08 1.07	昭和42年度		平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員65→69、編入学定員13→5)
地域環境研究専攻		4	64	4	260		1.07			平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員60→64、編入学定員12→4)
歴史学科						学士 (歴史学)	1.16	昭和42年度		
日本史学専攻		4	92	4	374		1.21			平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員90→92、編入学定員8→4)
外国史学専攻		4	66	4	271		1.14			平成28年度から入学定員及び編入学定員変更 (入学定員65→66、編入学定員6→4)
考古学専攻		4	35	3	146		1.09			

既設大学等の状況	社会科学 社会学専攻	4	64	4	260	学士(社会学)	1.13 1.15	昭和24年度	同上	平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員60→64、編入学定員12→4)	
	社会福祉学専攻	4	83	6	341		1.11			平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員80→83、編入学定員12→6)	
	心理学科	4	85	6	347	学士(心理学)	1.04	平成10年度	同上	平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員80→85、編入学定員16→6)	
	経済学部 経済学科	4	350	14	1418	学士(経済学)	1.06 1.09	昭和41年度		平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員340→350、編入学定員34→14)	
	商学科	4	246	12	1002	学士(商学)	0.97	昭和41年度	同上	平成26年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員360→340、編入学定員36→34)	
	現代応用経済学科	4	152	11	628	学士(経済学)	1.13	平成19年度		平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員240→246、編入学定員24→12)	
	法学部 法律学科 昼間主コース	4	309	12	1251	学士(法学)	1.07 1.09 1.09	昭和39年度	同上	平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員150→152、編入学定員15→11)	
	夜間主コース 政治学科	4 4	150 205	- 10	600 835	学士(政治学)	1.07 1.04	昭和47年度		平成26年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員130→150、編入学定員13→15)	
	経営学部 経営学科	4	340	13	1376	学士(経営学)	1.08 1.06	昭和44年度	同上	平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員200→205、編入学定員20→10)	
	市場戦略学科	4	185	8	751	学士(経営学)	1.11	平成20年度		平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員330→340、編入学定員33→13)	
	医療健康科学部 診療放射線技術科学科	4	60	3年次□ 4年次□	250	学士(保健衛生学)	1.02	平成15年度	同上	平成28年度から入学定員及び編入学定員変更(入学定員180→185、編入学定員18→8)	
	グローバル・メディ グローバル・メディア学科	4	300	15	1230	学士(メディア学)	1.11	平成18年度			
	附属施設の概要										

学校法人駒澤大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度				平成32年度				変更の事由		
入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員					
駒澤大学				駒澤大学						
		3年次			3年次					
仏教学部	仏教学科	80	5	330	仏教学部	仏教学科	80	5	330	
	禅学科	112	7	462		禅学科	112	7	462	
文学部	国文学科	134	7	550	文学部	国文学科	134	7	550	
	英米文学科	134	7	550		英米文学科	134	7	550	
	地理学科	133	9	550		地理学科	133	9	550	
	歴史学科	193	11	794		歴史学科	193	11	794	
	社会学科	147	10	608		社会学科	147	10	608	
	心理学科	85	6	352		心理学科	85	6	352	
経済学部	経済学科	350	14	1,428	経済学部	経済学科	350	14	1,428	
	商学科	246	12	1,008		商学科	246	12	1,008	
	現代応用経済学科	152	11	630		現代応用経済学科	152	11	630	
法学部	法律学科	459	12	1,860	法学部	法律学科	459	12	1,860	
	政治学科	205	10	840		政治学科	205	10	840	
経営学部	経営学科	340	13	1,386	経営学部	経営学科	340	13	1,386	
	市場戦略学科	185	8	756		市場戦略学科	185	8	756	
医療健康科学部	診療放射線技術科学科		4		医療健康科学部	診療放射線技術科学科		4		
		60	2	250			60	2	250	
グローバル・メディア・スタディーズ学部	グローバル・メディア学科	300	15	1,230	グローバル・メディア・スタディーズ学部	グローバル・メディア学科	300	15	1,230	
	計	3315	163	13,584		計	3315	163	13,584	
駒澤大学大学院				駒澤大学大学院						
人文科学研究科	仏教学専攻(M)	20	—	40	人文科学研究科	仏教学専攻(M)	20	—	40	研究科の設置 (届出)
	仏教学専攻(D)	5	—	15		仏教学専攻(D)	5	—	15	
	国文学専攻(M)	5	—	10	人文科学研究科	私教学専攻(M)	0	—	0	平成32年4月 学生募集停止
	国文学専攻(D)	2	—	6		私教学専攻(D)	0	—	0	
	英米文学専攻(M)	5	—	10		国文学専攻(M)	5	—	10	
	英米文学専攻(D)	2	—	6		国文学専攻(D)	2	—	6	
	地理学専攻(M)	5	—	10		英米文学専攻(M)	5	—	10	
	地理学専攻(D)	2	—	6		英米文学専攻(D)	2	—	6	
	歴史学専攻(M)	15	—	30		地理学専攻(M)	5	—	10	
	歴史学専攻(D)	6	—	18		地理学専攻(D)	2	—	6	
	社会学専攻(M)	5	—	10		歴史学専攻(M)	15	—	30	
	社会学専攻(D)	2	—	6		歴史学専攻(D)	6	—	18	
	心理学専攻(M)	10	—	20		社会学専攻(M)	5	—	10	
	心理学専攻(D)	2	—	6		社会学専攻(D)	2	—	6	
経済学研究科	経済学専攻(M)	10	—	20	経済学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20	
	経済学専攻(D)	2	—	6		心理学専攻(D)	2	—	6	
商学研究科	商学専攻(M)	15	—	30	経済学研究科	経済学専攻(M)	10	—	20	
	商学専攻(D)	2	—	6		経済学専攻(D)	2	—	6	
法学研究科	公法学専攻(M)	5	—	10	商学研究科	商学専攻(M)	15	—	30	
	公法学専攻(D)	2	—	6		商学専攻(D)	2	—	6	
	私法学専攻(M)	5	—	10	法学研究科	公法学専攻(M)	5	—	10	
	私法学専攻(D)	2	—	6		公法学専攻(D)	2	—	6	
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20		私法学専攻(M)	5	—	10	
	経営学専攻(D)	2	—	6		私法学専攻(D)	2	—	6	
医療健康科学研究科	診療放射線学専攻(M)	14	—	28	経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20	
	診療放射線学専攻(D)	3	—	9		経営学専攻(D)	2	—	6	
グローバル・メディア研究科	グローバル・メディア専攻(M)	10	—	20	医療健康科学研究科	診療放射線学専攻(M)	14	—	28	
	グローバル・メディア専攻(D)	3	—	9		診療放射線学専攻(D)	3	—	9	
法曹養成研究科	法曹養成専攻(P)	36	—	108	グローバル・メディア研究科	グローバル・メディア専攻(M)	10	—	20	
						グローバル・メディア専攻(D)	3	—	9	
	計	207	—	487	法曹養成研究科	法曹養成専攻(P)	36	—	108	
						計	207	—	487	

教育課程等の概要															
(仏教学研究科仏教学専攻修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
講義科目	宗学特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1						隔年
	宗学特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○		1							
	宗学特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○		1							
	宗教学特講【講義】	1・2通		4		○			1					隔年	
	禅学特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○		1							
	禅学特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○		1						隔年	
	インド仏教特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○			1						
	インド哲学特講【講義】	1・2通		4		○			1					隔年	
	チベット仏教特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1						
	チベット仏教特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年	
	中国仏教特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1						
	中国仏教特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年	
	中国禅宗史特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1				兼1		
	中国禅宗史特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年	
	日本仏教特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1						
	日本禅宗史特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年	
	仏教学特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○				1					
	仏教学特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○				1				隔年	
	仏教美術史特講【講義】	1・2通		4		○			1						
	宗教人類学特講【講義】	1・2通		4		○								兼1	
小計(20科目)		—	0	80	0	—	—	14	3	0	0	0	兼2		
演習科目	宗学特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					兼1	
	宗学特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1						
	宗学特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○		1						
	宗教学特講【演習】	1・2通		4			○			1				兼1	
	禅学特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1						
	禅学特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					兼1	
	インド仏教特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○			1					
	インド仏教特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○			1				兼1	
	インド哲学特講【演習】	1・2通		4			○			1					
	チベット仏教特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○			1				兼1	
	チベット仏教特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○			1					
	中国仏教特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○			1				兼1	
	中国仏教特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○			1					
	中国禅宗史特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○			1				兼1	
	中国禅宗史特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○			1					
	日本仏教特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○			1				兼1	
	日本禅宗史特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○			1					
	仏教学特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○				1			兼1	
	仏教学特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○				1				
	仏教美術史特講【演習】	1・2通		4			○			1				兼1	
	宗教人類学特講【演習】	1・2通		4			○								
小計(21科目)		—	0	84	0	—	—	14	3	0	0	0	兼3		
合計(41科目)		—	0	164	0	—	—	14	3	0	0	0	兼3		
学位又は称号	修士(仏教学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
本研究科に2年以上在学し、30単位以上修得すること。 必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、審査・試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要														
(仏教学研究科仏教学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義科目	宗学特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	宗学特殊研究Ⅱ	1・2・3通		4		○			1					
	宗学特殊研究Ⅲ	1・2・3通		4		○			1					
	禅学特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	インド哲学特殊研究	1・2・3通		4		○				1				
	チベット仏教特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	チベット仏教特殊研究Ⅱ	1・2・3通		4		○			1					
	中国仏教特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	中国仏教史特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	中国禅宗史特殊研究	1・2・3通		4		○								兼1
	日本仏教特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	日本禅宗史特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	仏教学特殊研究Ⅱ	1・2・3通		4		○				1				
	宗教学特殊研究	1・2・3通		4		○								兼1
	宗教人類学特殊研究	1・2・3通		4		○								兼1
小計（15科目）		—	0	60	0	—			10	2	0	0	0	兼2
研究指導科目	宗学研究指導Ⅰ	1・2・3通		—		○			1					
	宗学研究指導Ⅱ	1・2・3通		—		○			1					
	宗学研究指導Ⅲ	1・2・3通		—		○			1					
	禅学研究指導Ⅰ	1・2・3通		—		○			1					
	インド哲学研究指導	1・2・3通		—		○				1				
	チベット仏教研究指導Ⅰ	1・2・3通		—		○			1					
	チベット仏教研究指導Ⅱ	1・2・3通		—		○			1					
	中国仏教研究指導Ⅰ	1・2・3通		—		○			1					
	中国仏教史研究指導	1・2・3通		—		○			1					
	中国禅宗史研究指導	1・2・3通		—		○								兼1
	日本仏教研究指導	1・2・3通		—		○			1					
	日本禅宗史研究指導	1・2・3通		—		○			1					
	仏教学研究指導Ⅱ	1・2・3通		—		○				1				
	宗教学研究指導	1・2・3通		—		○								兼1
	宗教人類学研究指導	1・2・3通		—		○								兼1
小計（15科目）		—	0	—	0	—			10	2	0	0	0	兼2
合計（30科目）			0	60	0	—			10	2	0	0	0	兼2
学位又は称号	博士（仏教学）			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
本研究科に3年以上在学し、12単位以上修得すること。 必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、審査・試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要														
(人文科学研究科仏教学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義科目	宗学特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	宗学特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	宗学特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	禅学特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	禅学特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					
	インド仏教特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					
	インド仏教特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○			1					
	インド哲学特講【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	チベット仏教特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	チベット仏教特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					
	中国仏教特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1					
	中国仏教特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	中国禅宗史特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1				兼1	
	中国禅宗史特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					
	日本仏教特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					
	日本禅宗史特講Ⅰ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	仏教学特講Ⅱ【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	仏教学特講Ⅲ【講義】	1・2通		4		○			1					
	仏教美術史特講【講義】	1・2通		4		○			1					隔年
	宗教人類学特講【講義】	1・2通		4		○								兼1
小計(20科目)	—	—	0	80	0	—	—	—	18	0	0	0	0	兼2
演習科目	宗学特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					
	宗学特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					
	宗学特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○		1					
	禅学特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					
	禅学特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					
	インド仏教特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					兼1
	インド仏教特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					
	インド仏教特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○		1					
	インド哲学特講【演習】	1・2通		4			○		1					
	チベット仏教特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					
	チベット仏教特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					
	中国仏教特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					
	中国仏教特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○		1					
	中国禅宗史特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					兼1
	中国禅宗史特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					
	日本仏教特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					
	日本禅宗史特講Ⅰ【演習】	1・2通		4			○		1					
	仏教学特講Ⅱ【演習】	1・2通		4			○		1					
	仏教学特講Ⅲ【演習】	1・2通		4			○		1					
	仏教美術史特講【演習】	1・2通		4			○		1					
宗教人類学特講【演習】	1・2通		4			○							兼1	
小計(21科目)	—	—	0	84	0	—	—	—	18	0	0	0	0	兼3
合計(41科目)	—	—	0	164	0	—	—	—	18	0	0	0	0	兼3
学位又は称号	修士(仏教学)		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
本研究科に2年以上在学し、30単位以上修得すること。 必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、審査・試験に合格すること。						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要														
(人文科学研究科仏教学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義科目	宗学特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	宗学特殊研究Ⅱ	1・2・3通		4		○			1					
	宗学特殊研究Ⅲ	1・2・3通		4		○			1					
	禅学特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	インド仏教特殊研究Ⅱ	1・2・3通		4		○			1					
	インド仏教史特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	インド哲学特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	チベット仏教特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	チベット仏教特殊研究Ⅱ	1・2・3通		4		○			1					
	中国仏教特殊研究Ⅰ	1・2・3通		4		○			1					
	中国仏教史特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	中国禅宗史特殊研究	1・2・3通		4		○								兼1
	日本仏教特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	日本禅宗史特殊研究	1・2・3通		4		○			1					
	仏教学特殊研究Ⅱ	1・2・3通		4		○			1					
宗教学特殊研究	1・2・3通		4		○			1						
小計（15科目）		—	0	64	0	—		15	0	0	0	0	0	兼1
研究指導科目	宗学研究指導Ⅰ	1・2・3通		—			○		1					
	宗学研究指導Ⅱ	1・2・3通		—			○		1					
	宗学研究指導Ⅲ	1・2・3通		—			○		1					
	禅学研究指導Ⅰ	1・2・3通		—			○		1					
	インド仏教研究指導Ⅱ	1・2・3通		—			○		1					
	インド仏教史研究指導	1・2・3通		—			○		1					
	インド哲学研究指導	1・2・3通		—			○		1					
	チベット仏教研究指導Ⅰ	1・2・3通		—			○		1					
	チベット仏教研究指導Ⅱ	1・2・3通		—			○		1					
	中国仏教研究指導Ⅰ	1・2・3通		—			○		1					
	中国仏教史研究指導	1・2・3通		—			○		1					
	中国禅宗史研究指導	1・2・3通		—			○							兼1
	日本仏教研究指導	1・2・3通		—			○		1					
	日本禅宗史研究指導	1・2・3通		—			○		1					
	仏教学研究指導Ⅱ	1・2・3通		—			○		1					
宗教学研究指導	1・2・3通		—			○		1						
小計（15科目）		—	0	—	0	—		15	0	0	0	0	0	兼1
合計（30科目）			0	64	0	—		15	0	0	0	0	0	兼1
学位又は称号	博士（仏教学）		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
本研究科に3年以上在学し、12単位以上修得すること。 必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、審査・試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要														
(仏教学部禅学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
宗教教育科目	仏教と人間	1通	4			○			17	3	3			兼5
	文化と宗教	1・2・3・4通		4		○			1					
	社会と宗教	1・2・3・4通		4		○			1					
	自然と宗教	1・2・3・4通		4		○				1				
全学共通科目	宗教学	1・2・3・4通		4		○			1					兼1
	世界の宗教	1・2・3・4通		4		○								兼2
	人間観A	1・2・3・4前		2		○								兼1
	人間観B	1・2・3・4後		2		○								兼1
	価値観	1・2・3・4通		4		○								兼1
	制度とモラル	1・2・3・4通		4		○								兼1
	現代と倫理	1・2・3・4通		4		○								兼1
	東洋倫理	1・2・3・4通		4		○			1					
	科学と技術	1・2・3・4通		4		○								兼1
	近代科学の成立と展開	1・2・3・4通		4		○								兼1
	科学方法論と現代論理	1・2・3・4通		4		○								兼5
	知の技法	1・2・3・4通		4		○				1				兼1
	西洋思想の源流	1・2・3・4通		4		○			1					兼2
	近代の人間観と世界観	1・2・3・4通		4		○								兼4
	日本美術	1・2・3・4通		4		○								兼1
	西洋芸術	1・2・3・4通		4		○								兼1
	音楽	1・2・3・4通		4		○								兼1
	歴史学	1・2・3・4通		4		○			1					兼6
	文学	1・2・3・4通		4		○			3	2				兼4
	日本語テーマ研究 I	1・2・3・4前		2		○			1					
	日本語テーマ研究 II	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本語文化基礎	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本文化基礎	1・2・3・4後		2		○			3					兼1
	実務表現 I (話すこと)	1・2・3・4前		2		○			1					
	実務表現 II (書くこと)	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本語文化探求 I	1・2・3・4前		2		○			1					
	日本語文化探求 II	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本文化探求 IA	2・3・4前		2		○			2					
	日本文化探求 IIA	2・3・4後		2		○			2					
	日本文化探求 IB	2・3・4前		2		○			2	1				
	日本文化探求 IIB	2・3・4後		2		○			2	1				
	日本語文化研究会 I	1・2・3・4前		2		○			1					
日本語文化研究会 II	1・2・3・4後		2		○			1						
日本文化理解 IA	1・2・3・4前		2		○			1					兼1	
日本文化理解 IIA	1・2・3・4後		2		○			1					兼1	
日本文化理解 IB	1・2・3・4前		2		○			2	1					
日本文化理解 IIB	1・2・3・4後		2		○			2	1					
人文地理学	1・2・3・4通		4		○			1					兼3	
教育心理	1・2・3・4通		4		○								兼1	
英語圏文化研究a	1・2・3・4前		2		○				1					
英語圏文化研究b	1・2・3・4後		2		○				1					
社会分野	経済学	1・2・3・4通		4		○								兼1
	経済学A	1・2・3・4前		2		○								兼3
	経済学B	1・2・3・4後		2		○								兼3
	政治学	1・2・3・4通		4		○			1	1				兼2
	法学・憲法	1・2・3・4通		4		○								兼8
	民族と文化A	1・2・3・4前		2		○								兼2
	民族と文化B	1・2・3・4後		2		○								兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通科目	社会分野	日本の文化と社会	1・2・3・4通	4		○										兼2
		アジアの社会と文化	1・2・3・4通	4		○										兼2
		文化人類学概論	1・2・3・4通	4		○				1						兼2
		統計学	1・2・3・4通	4		○										兼1
		統計学A	1・2・3・4前	2		○										兼1
		統計学B	1・2・3・4後	2		○										兼1
		社会学	1・2・3・4通	4		○										兼1
		社会学A	1・2・3・4前	2		○										兼4
		社会学B	1・2・3・4後	2		○										兼4
		教育学	1・2・3・4通	4		○										兼1
		社会科学論A	1・2・3・4前	2		○										兼1
		社会科学論B	1・2・3・4後	2		○										兼1
		現代社会と宗教A	1・2・3・4前	2		○				1	1					
		現代社会と宗教B	1・2・3・4後	2		○				1	1					
		応用倫理学	1・2・3・4通	4		○					1					兼1
		現代文明と哲学	1・2・3・4通	4		○					1					兼2
	都市論	1・2・3・4通	4		○				1							
	自然分野	心理学	1・2・3・4通	4		○										兼7
		心理学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1
		心理学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1
		人類学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1
		人類学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1
		宇宙科学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○				1						
		宇宙科学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○				1						
		化学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○				1						
		化学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○				1						
		物理学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○				1						
		物理学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○				1						
		数学Ⅰa	1・2・3・4前	2		○				1						
		数学Ⅰb	1・2・3・4後	2		○				1						
		数学Ⅱa	1・2・3・4前	2		○				1						
		数学Ⅱb	1・2・3・4後	2		○				1						
		数学Ⅲa	1・2・3・4前	2		○										兼1
		数学Ⅲb	1・2・3・4後	2		○										兼1
		数学Ⅳa	1・2・3・4前	2		○				1						
		数学Ⅳb	1・2・3・4後	2		○				1						
自然誌Ⅰ		1・2・3・4前	2		○				1							
自然誌Ⅱ	1・2・3・4後	2		○				1								
自然環境論Ⅰ	1・2・3・4前	2		○				4						兼2		
自然環境論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○				4						兼2		
地球科学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○				1						兼2		
地球科学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○				1						兼2		
生物学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○				1						兼1		
生物学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○				1						兼1		
自然観察実習	1・2・3・4前・後	2					○	1								
ライフデザイン分野	コンピュータ基礎	1・2・3・4前・後	2			○			2						兼5	
	コンピュータ応用Ⅰ	1・2・3・4前	2			○			1							
	コンピュータ応用Ⅱ	1・2・3・4後	2			○			1							
	新入生セミナー	1前	2			○			3	1	1					
	キャリアを考えるⅠ	2前	2			○									兼1	
	キャリアを考えるⅡ	2後	2			○									兼1	
	ITリテラシーA	1・2・3・4前	2			○			1							
	ITリテラシーB	1・2・3・4後	2			○			1							
	ITリテラシーC	1・2・3・4前	2			○			1							
	ITリテラシーD	1・2・3・4後	2			○			1							
メディアと文化入門	1・2・3・4前	2			○				1					兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	メディアと文化発展	1・2・3・4後		2		○				1					兼1
	コミュニケーション文化入門	1・2・3・4前		2		○									兼1
	コミュニケーション文化発展	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ライフデザイン入門	1・2前・後		2		○			1						兼1
	駒澤大学の歴史	1・2・3・4後		2		○				1					兼1
	世田谷6大学連携総合講座Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1
	世田谷6大学連携総合講座Ⅱ	1・2・3・4前・後		2		○									休講
	世田谷6大学連携総合講座Ⅲ	1・2・3・4前・後		2		○									休講
	世田谷6大学連携総合講座Ⅳ	1・2・3・4前・後		2		○									休講
	世田谷6大学連携総合講座Ⅴ	1・2・3・4後		2		○									兼1
基礎演習	2通		4			○		3	1	1					
全学共通科目	英語ⅠAa	1前		1			○								兼6
	英語ⅠAb	1後		1			○								兼7
	英語ⅠBa	1前		1			○			2					兼5
	英語ⅠBb	1後		1			○			2					兼5
	ドイツ語ⅠAa	1前		1			○				1				
	ドイツ語ⅠAb	1後		1			○				1				
	ドイツ語ⅠBa	1前		1			○				1				
	ドイツ語ⅠBb	1後		1			○				1				
	フランス語ⅠAa	1前		1			○								兼2
	フランス語ⅠAb	1後		1			○								兼2
	フランス語ⅠBa	1前		1			○								兼2
	フランス語ⅠBb	1後		1			○								兼2
	中国語ⅠAa	1前		1			○			2					兼1
	中国語ⅠAb	1後		1			○			2					兼1
	中国語ⅠBa	1前		1			○			2					兼1
	中国語ⅠBb	1後		1			○			2					兼1
	スペイン語ⅠAa	1前		1			○								兼3
	スペイン語ⅠAb	1後		1			○								兼3
	スペイン語ⅠBa	1前		1			○								兼3
	スペイン語ⅠBb	1後		1			○								兼3
	ロシア語ⅠAa	1前		1			○								兼1
	ロシア語ⅠAb	1後		1			○				1				
	ロシア語ⅠBa	1前		1			○								兼1
	ロシア語ⅠBb	1後		1			○								兼1
	英語ⅡAa	2前		1			○								兼7
	英語ⅡAb	2後		1			○								兼7
	英語ⅡBa	2前		1			○								兼7
	英語ⅡBb	2後		1			○								兼7
	ドイツ語ⅡAa	2前		1			○				1				
	ドイツ語ⅡAb	2後		1			○				1				
	ドイツ語ⅡBa	2前		1			○								兼1
	ドイツ語ⅡBb	2後		1			○								兼1
	フランス語ⅡAa	2前		1			○								兼1
	フランス語ⅡAb	2後		1			○								兼1
	フランス語ⅡBa	2前		1			○				1				
	フランス語ⅡBb	2後		1			○				1				
中国語ⅡAa	2前		1			○			1	1				兼1	
中国語ⅡAb	2後		1			○			1	1				兼1	
中国語ⅡBa	2前		1			○								兼2	
中国語ⅡBb	2後		1			○								兼2	
スペイン語ⅡAa	2前		1			○			1					兼1	
スペイン語ⅡAb	2後		1			○			1					兼1	
スペイン語ⅡBa	2前		1			○								兼1	
スペイン語ⅡBb	2後		1			○								兼1	
ロシア語ⅡAa	2前		1			○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全 学 共 通 科 目	ロシア語ⅡAb	2後		1				○								兼1
	ロシア語ⅡBa	2前		1				○								兼1
	ロシア語ⅡBb	2後		1				○								兼1
	実用英会話（日常生活編）	1・2・3・4前		1				○						1		兼5
	実用英会話（旅行編）	1・2・3・4後		1				○						1		兼5
	実用英語資格試験Ⅰa（聴解）	1・2・3・4前		1				○							1	兼1
	実用英語資格試験Ⅰb（文法・読解）	1・2・3・4前		1				○			1					兼1
	ビジネス英語Ⅰ	1・2・3・4前		1				○								兼2
	実用英語資格試験Ⅱa（聴解）	1・2・3・4前		1				○								兼1
	実用英語資格試験Ⅱb（文法・読解）	1・2・3・4前		1				○			1					兼1
	ビジネス英語Ⅱ	1・2・3・4後		1				○								兼2
	英語プレゼンテーション（実践）	2・3・4前		1				○			1	1				兼1
	英語プレゼンテーション（応用）	2・3・4後		1				○			1	1				兼1
	英語ディスカッションⅠa	1・2・3・4前		1				○								兼2
	英語ディスカッションⅠb	1・2・3・4後		1				○								兼2
	学術英語資格試験Ⅰa（読解）	1・2・3・4前		1				○								兼1
	学術英語資格試験Ⅰb（聴解・会話）	1・2・3・4前		1				○				1				兼1
	英語アカデミック・ライティングⅠa	1・2・3・4前		1				○								兼1
	英語アカデミック・ライティングⅠb	1・2・3・4後		1				○								兼1
	実用英語資格試験Ⅲa（聴解）	1・2・3・4前		1				○								兼1
	実用英語資格試験Ⅲb（文法・読解）	1・2・3・4後		1				○								兼1
	英語ディスカッションⅡa	1・2・3・4前		1				○			1					兼1
	英語ディスカッションⅡb	1・2・3・4後		1				○			1					兼1
	学術英語資格試験Ⅱa（読解）	1・2・3・4前		1				○						1		兼1
	学術英語資格試験Ⅱb（聴解・会話）	1・2・3・4後		1				○						1		兼1
	英語アカデミック・ライティングⅡ	1・2・3・4前		1				○				1				兼1
	英語多読・多聴a	1・2・3・4前		1				○				2				兼1
	英語多読・多聴b	1・2・3・4後		1				○				2				兼1
	英語クリエイティブ・ライティング	1・2・3・4前		1				○				1				兼1
	パフォーマンス・イン・イングリッシュ	1・2・3・4前		1				○								兼2
	学術英語読解a	1・2・3・4前		2				○				1	1			兼1
	学術英語読解b	1・2・3・4後		2				○				1	1			兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅰ）	1・2・3・4前		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅱ）	1・2・3・4後		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅲ）	1・2・3・4前		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅳ）	1・2・3・4後		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅴ）	1・2・3・4前		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅵ）	1・2・3・4後		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅶ）	1・2・3・4前		2				○			1					兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅷ）	1・2・3・4後		2				○			1					兼1
	英語で学ぶ教養（文化Ⅰ）	1・2・3・4前		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（文化Ⅱ）	1・2・3・4後		2				○				1				兼1
	英語で学ぶ教養（文化Ⅲ）	1・2・3・4前		2				○						1		兼1
	英語で学ぶ教養（文化Ⅳ）	1・2・3・4後		2				○						1		兼1
	英語で学ぶ教養（文化Ⅴ）	1・2・3・4前		2				○				1				兼1
英語で学ぶ教養（文化Ⅵ）	1・2・3・4後		2				○				1				兼1	
英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅰ）	1・2・3・4前		2				○			1					兼1	
英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅱ）	1・2・3・4後		2				○			1					兼1	
英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅲ）	1・2・3・4前		2				○			1					兼1	
英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅳ）	1・2・3・4後		2				○			1					兼1	
英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅴ）	1・2・3・4前		2				○					1			兼1	
英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅵ）	1・2・3・4後		2				○					1			兼1	
ドイツ語ⅠAa（選）	1・2・3・4前		1					○							兼1	
ドイツ語ⅠAb（選）	1・2・3・4後		1					○							兼1	
ドイツ語ⅠBa（選）	1・2・3・4前		1					○							兼1	
ドイツ語ⅠBb（選）	1・2・3・4後		1					○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
全 学 共 通 科 目	ドイツ語Ⅱa (選)	2・3・4前		1				○										
	ドイツ語Ⅱb (選)	2・3・4後		1				○										
	ドイツ語コミュニケーションAa	2・3・4前		1				○									兼1	
	ドイツ語コミュニケーションAb	2・3・4後		1				○									兼1	
	ドイツ語コミュニケーションBa	2・3・4前		1				○									兼1	
	ドイツ語コミュニケーションBb	2・3・4後		1				○									兼1	
	名文で味わうドイツ語a	3・4前		2				○										
	名文で味わうドイツ語b	3・4後		2				○										
	現代を読むドイツ語a	3・4前		2				○										
	現代を読むドイツ語b	3・4後		2				○										
	ドイツ語スキルアップa	2・3・4前		1					○									兼1
	ドイツ語スキルアップb	2・3・4後		1					○									兼1
	フランス語ⅠAa (選)	1・2・3・4前		1					○									
	フランス語ⅠAb (選)	1・2・3・4後		1					○									
	フランス語ⅠBa (選)	1・2・3・4前		1					○									
	フランス語ⅠBb (選)	1・2・3・4後		1					○									
	フランス語Ⅱa (選)	2・3・4前		1					○									
	フランス語Ⅱb (選)	2・3・4後		1					○									
	フランス語コミュニケーションAa	2・3・4前		1					○									兼1
	フランス語コミュニケーションAb	2・3・4後		1					○									兼1
	フランス語コミュニケーションBa	2・3・4前		1					○									兼1
	フランス語コミュニケーションBb	2・3・4後		1					○									兼1
	名文で味わうフランス語a	3・4前		2					○									
	名文で味わうフランス語b	3・4後		2					○									
	現代を読むフランス語a	3・4前		2					○									
	現代を読むフランス語b	3・4後		2					○									
	フランス語スキルアップa	2・3・4前		1					○									
	フランス語スキルアップb	2・3・4後		1					○									
	中国語ⅠAa (選)	1・2・3・4前		1					○									兼1
	中国語ⅠAb (選)	1・2・3・4後		1					○									兼1
	中国語ⅠBa (選)	1・2・3・4前		1					○									兼1
	中国語ⅠBb (選)	1・2・3・4後		1					○									兼1
	中国語Ⅱa (選)	2・3・4前		1					○									兼1
	中国語Ⅱb (選)	2・3・4後		1					○									兼1
	中国語コミュニケーションAa	2・3・4前		1					○									
	中国語コミュニケーションAb	2・3・4後		1					○									
	中国語コミュニケーションBa	2・3・4前		1					○									兼1
	中国語コミュニケーションBb	2・3・4後		1					○									兼1
	名文で味わう中国語a	3・4前		2					○									
	名文で味わう中国語b	3・4後		2					○									
	現代を読む中国語a	3・4前		2					○									
	現代を読む中国語b	3・4後		2					○									
	中国語スキルアップa	2・3・4前		1					○									兼1
	中国語スキルアップb	2・3・4後		1					○									兼1
	スペイン語ⅠAa (選)	1・2・3・4前		1					○									兼1
	スペイン語ⅠAb (選)	1・2・3・4後		1					○									兼1
	スペイン語ⅠBa (選)	1・2・3・4前		1					○									兼1
	スペイン語ⅠBb (選)	1・2・3・4後		1					○									兼1
	スペイン語Ⅱa (選)	2・3・4前		1					○									兼1
	スペイン語Ⅱb (選)	2・3・4後		1					○									兼1
	スペイン語コミュニケーションAa	2・3・4前		1					○									兼1
スペイン語コミュニケーションAb	2・3・4後		1					○									兼1	
スペイン語コミュニケーションBa	2・3・4前		1					○									兼1	
スペイン語コミュニケーションBb	2・3・4後		1					○									兼1	
名文で味わうスペイン語a	3・4前		2					○										
名文で味わうスペイン語b	3・4後		2					○										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
外国語科目	現代を読むスペイン語a	3・4前		2		○				1							
	現代を読むスペイン語b	3・4後		2		○				1							
	スペイン語スキルアップa	2・3・4前		1			○			1							
	スペイン語スキルアップb	2・3・4後		1			○			1							
	ロシア語 I Aa (選)	1・2・3・4前		1			○									兼1	
	ロシア語 I Ab (選)	1・2・3・4後		1			○									兼1	
	ロシア語 I Ba (選)	1・2・3・4前		1			○									兼1	
	ロシア語 I Bb (選)	1・2・3・4後		1			○									兼1	
	ロシア語 II a (選)	2・3・4前		1			○									兼1	
	ロシア語 II b (選)	2・3・4後		1			○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションAa	2・3・4前		1			○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションAb	2・3・4後		1			○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションBa	2・3・4前		1			○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションBb	2・3・4後		1			○									兼1	
	名文で味わうロシア語a	3・4前		2			○			1							
	名文で味わうロシア語b	3・4後		2			○			1							
	現代を読むロシア語a	3・4前		2			○			1							
	現代を読むロシア語b	3・4後		2			○			1							
	ロシア語スキルアップa	2・3・4前		1				○								兼1	
	ロシア語スキルアップb	2・3・4後		1				○								兼1	
	朝鮮語 I Aa (選)	1・2・3・4前		1				○								兼1	
	朝鮮語 I Ab (選)	1・2・3・4後		1				○								兼1	
	朝鮮語 I Ba (選)	1・2・3・4前		1				○								兼1	
	朝鮮語 I Bb (選)	1・2・3・4後		1				○								兼1	
	朝鮮語 II a (選)	2・3・4前		1				○								兼1	
	朝鮮語 II b (選)	2・3・4後		1				○								兼1	
	外国文化a	1・2・3・4前		2			○			1							
	外国文化b	1・2・3・4後		2			○			1							
	全学共通科目	健康・スポーツ実習	1通	2					○	5	4	2					
		生涯スポーツ実習 I (前期・基礎)	1前		1				○		2	2					
		生涯スポーツ実習 II (前期・基礎)	2前		1				○		2	2					
		生涯スポーツ実習 III (前期・基礎)	3前		1				○		2	2					
		生涯スポーツ実習 IV (前期・基礎)	4前		1				○		2	2					
生涯スポーツ実習 I (後期・基礎)		1後		1				○		2	2						
生涯スポーツ実習 II (後期・基礎)		2後		1				○		2	2						
生涯スポーツ実習 III (後期・基礎)		3後		1				○		2	2						
生涯スポーツ実習 IV (後期・基礎)		4後		1				○		2	2						
生涯スポーツ実習 I (前期・応用)		1前		1				○		1	2						
生涯スポーツ実習 II (前期・応用)		2前		1				○		1	2						
生涯スポーツ実習 III (前期・応用)		3前		1				○		1	2						
生涯スポーツ実習 IV (前期・応用)		4前		1				○		1	2						
生涯スポーツ実習 I (後期・応用)		1後		1				○		1	2						
生涯スポーツ実習 II (後期・応用)		2後		1				○		1	2						
生涯スポーツ実習 III (後期・応用)		3後		1				○		1	2						
生涯スポーツ実習 IV (後期・応用)		4後		1				○		1	2						
生涯スポーツ演習 I (シーズン基礎A)		1・2・3・4通		2				○		1							
生涯スポーツ演習 I (シーズン基礎B)		1・2・3・4通		2				○		1							
生涯スポーツ演習 I (シーズン応用A)		1・2・3・4通		2				○		1							
生涯スポーツ演習 I (シーズン応用B)		1・2・3・4通		2				○		1							
生涯スポーツ演習 II (シーズン基礎A)		1・2・3・4通		2				○		1							
生涯スポーツ演習 II (シーズン基礎B)		1・2・3・4通		2				○		1							
生涯スポーツ演習 II (シーズン応用A)		1・2・3・4通		2				○		1							
生涯スポーツ演習 II (シーズン応用B)		1・2・3・4通		2				○		1							
健康・スポーツ論1		1・2・3・4前・後		2			○			4	2						
健康・スポーツ論2		1・2・3・4前・後		2			○			1	2						
小計 (331科目)		—	6	573	0		—		51	24	9	1	0		兼164		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	仏教学入門	1通	4			○			2							
	仏教漢文入門	1通	4			○			1	2	1				兼1	
	宗典	2通	4			○			2							
	坐禅Ⅰ	2通	4					○	3							
	宗教学概論	2通	4			○			1		1					
	禅思想概説	3通	4			○			1							
	演習Ⅰ	3通	4					○	18	2	3					
	演習Ⅱ	4通	4					○	18	2	3					
	卒業論文	4	8													
	インド仏教史	1・2通		4			○					1				
	中国仏教史	1・2通		4			○			1						
	日本仏教史	1・2通		4			○			1						
	中国禅宗史	1・2通		4			○			1						
	日本禅宗史	1・2通		4			○			1						
	東南アジア仏教史	2通		4			○								兼1	
	チベット仏教史	2通		4			○			1						
	韓国仏教史	2通		4			○			1						
	パーリ語初級	2・3通		4			○								兼1	
	サンスクリット語初級	2・3通		4			○			1						
	チベット語初級	2・3通		4			○			1						
	漢文講読Ⅰ	2・3通		4			○			1						
	宗教史	2・3通		4			○								兼1	
	仏教美術史	2・3通		4			○			1						
	インド哲学史	2・3通		4			○			1						
	中国哲学史	2・3通		4			○								兼1	
	禅学研究A	3・4通		4			○			1						
	禅学研究B	3・4通		4			○			1						
	禅学研究C	3・4通		4			○			1						
	宗教学研究	3・4通		4			○								兼1	
	仏教美術研究	3・4通		4			○			1						
	禅籍講読Ⅰ	3・4通		4			○			1						
	禅籍講読Ⅱ	3・4通		4			○			1						
	禅籍講読Ⅲ	3・4通		4			○			1						
	漢文講読Ⅱ	3・4通		4			○			1						
	英文仏書講読	3・4通		4			○			1						
	仏教学セミナー	1後		2			○			3	1	1				
	仏教文化史	1・2・3・4通		4			○						1			
	禅文化史	1・2・3・4通		4			○						1			
	インド仏教思想史	1・2・3・4通		4			○			1						
	中国仏教思想史	1・2・3・4通		4			○				1					
	日本仏教思想史	1・2・3・4通		4			○				1					
	日用経典	1・2・3・4通		4			○			1						
	禅美術	2・3・4通		4			○			1						
	禅心理学	2・3・4通		4			○								兼1	
	仏教文献学	2・3・4通		4			○								兼1	
	仏教民俗学	2・3・4通		4			○					1				
	仏教と社会	2・3・4通		4			○			1						
	原始仏教	2・3・4通		4			○			1						
	浄土学概論	2・3・4通		4			○								兼1	隔年
	真宗学概論	2・3・4通		4			○								兼1	隔年
真言学概論	2・3・4通		4			○								兼1	隔年	
日蓮教学概論	2・3・4通		4			○								兼1	隔年	
神道概説	2・3・4通		4			○								兼1	隔年	
新宗教概説	2・3・4通		4			○								兼1	隔年	
キリスト教概論	2・3・4通		4			○								兼1		
イスラム教概論	2・3・4通		4			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	哲学概説	2・3・4通		4		○										兼1
	宗教哲学	2・3・4通		4		○			1							
	心理学概論Ⅰ	2・3・4前		2		○			1							
	心理学概論Ⅱ	2・3・4後		2		○			1							
	パーリ語上級	2・3・4通		4		○										兼1
	サンスクリット語上級	2・3・4通		4		○			1							
	チベット語上級	2・3・4通		4		○			1							
	法式実習	4通		4				○	1							
	漢詩作法	2・3・4通		4		○										兼1
	書道	2・3・4通		4				○								兼1
	宗教教育	2・3・4通		4		○										兼1
	青少年問題研究	2・3・4通		4		○										兼1
	宗教法概説	2・3・4通		4		○										兼1
	禅学特講ⅠA	2・3・4前		2		○										兼1
	禅学特講ⅡB	2・3・4後		2		○										兼1
	禅学特講ⅢA	2・3・4前		2		○										兼1
	禅学特講ⅣB	2・3・4後		2		○										兼1
	仏教特講ⅠA	2・3・4前		2		○										休講
	仏教特講ⅡB	2・3・4後		2		○										休講
	仏教特講ⅢA	2・3・4前		2		○										兼1
	仏教特講ⅣB	2・3・4後		2		○										兼1
	坐禅Ⅱ	3・4通		4				○	1							
	仏教研究A	3・4通		4		○			1							
	仏教研究B	3・4通		4		○					1					
	仏教研究C	3・4通		4		○			1							
	仏典講読Ⅰ	3・4通		4		○				1						
	仏典講読Ⅱ	3・4通		4		○				1						
	仏典講読Ⅲ	3・4通		4		○			1							
小計(84科目)		—	40	278	0	—		22	2	3	0	0			兼21	
合計(415科目)		—	46	851	0	—		55	24	9	1	0			兼184	
学位又は称号		学士(禅学)		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
大学に4年以上在学し、卒業に必要な単位(124単位)を修得した者。 履修科目の登録の上限：49単位							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要														
(仏教学部仏教学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
宗教教育科目	仏教と人間	1通	4			○			17	3	3			兼5
	文化と宗教	1・2・3・4通		4		○			1					
	社会と宗教	1・2・3・4通		4		○			1					
	自然と宗教	1・2・3・4通		4		○				1				
全学共通科目	宗教学	1・2・3・4通		4		○			1					兼1
	世界の宗教	1・2・3・4通		4		○								兼2
	人間観A	1・2・3・4前		2		○								兼1
	人間観B	1・2・3・4後		2		○								兼1
	価値観	1・2・3・4通		4		○								兼1
	制度とモラル	1・2・3・4通		4		○								兼1
	現代と倫理	1・2・3・4通		4		○								兼1
	東洋倫理	1・2・3・4通		4		○			1					
	科学と技術	1・2・3・4通		4		○								兼1
	近代科学の成立と展開	1・2・3・4通		4		○								兼1
	科学方法論と現代論理	1・2・3・4通		4		○								兼5
	知の技法	1・2・3・4通		4		○					1			兼1
	西洋思想の源流	1・2・3・4通		4		○			1					兼2
	近代の人間観と世界観	1・2・3・4通		4		○								兼4
	日本美術	1・2・3・4通		4		○								兼1
	西洋芸術	1・2・3・4通		4		○								兼1
	音楽	1・2・3・4通		4		○								兼1
	歴史学	1・2・3・4通		4		○			1					兼6
	文学	1・2・3・4通		4		○			3	2				兼4
	日本語テーマ研究 I	1・2・3・4前		2		○			1					
	日本語テーマ研究 II	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本語文化基礎	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本文化基礎	1・2・3・4後		2		○			3					兼1
	実務表現 I (話すこと)	1・2・3・4前		2		○			1					
	実務表現 II (書くこと)	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本語文化探求 I	1・2・3・4前		2		○			1					
	日本語文化探求 II	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本文化探求 I A	2・3・4前		2		○			2					
	日本文化探求 II A	2・3・4後		2		○			2					
	日本文化探求 I B	2・3・4前		2		○			2	1				
	日本文化探求 II B	2・3・4後		2		○			2	1				
	日本語文化研究会 I	1・2・3・4前		2		○			1					
	日本語文化研究会 II	1・2・3・4後		2		○			1					
	日本文化理解 I A	1・2・3・4前		2		○			1					兼1
日本文化理解 II A	1・2・3・4後		2		○			1					兼1	
日本文化理解 I B	1・2・3・4前		2		○			2	1					
日本文化理解 II B	1・2・3・4後		2		○			2	1					
人文地理学	1・2・3・4通		4		○			1					兼3	
教育心理	1・2・3・4通		4		○								兼1	
英語圏文化研究a	1・2・3・4前		2		○				1					
英語圏文化研究b	1・2・3・4後		2		○				1					
社会分野	経済学	1・2・3・4通		4		○								兼1
	経済学A	1・2・3・4前		2		○								兼3
	経済学B	1・2・3・4後		2		○								兼3
	政治学	1・2・3・4通		4		○			1	1				兼2
	法学・憲法	1・2・3・4通		4		○								兼8
	民族と文化A	1・2・3・4前		2		○								兼2
民族と文化B	1・2・3・4後		2		○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通科目	社会分野	日本の文化と社会	1・2・3・4通	4		○										兼2
		アジアの社会と文化	1・2・3・4通	4		○										兼2
		文化人類学概論	1・2・3・4通	4		○			1							兼2
		統計学	1・2・3・4通	4		○										兼1
		統計学A	1・2・3・4前	2		○										兼1
		統計学B	1・2・3・4後	2		○										兼1
		社会学	1・2・3・4通	4		○										兼1
		社会学A	1・2・3・4前	2		○										兼4
		社会学B	1・2・3・4後	2		○										兼4
		教育学	1・2・3・4通	4		○										兼1
		社会科学論A	1・2・3・4前	2		○										兼1
		社会科学論B	1・2・3・4後	2		○										兼1
		現代社会と宗教A	1・2・3・4前	2		○			1	1						
		現代社会と宗教B	1・2・3・4後	2		○			1	1						
		応用倫理学	1・2・3・4通	4		○				1						兼1
		現代文明と哲学	1・2・3・4通	4		○				1						兼2
	都市論	1・2・3・4通	4		○			1								
	自然分野	心理学	1・2・3・4通	4		○										兼7
		心理学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		心理学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		人類学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		人類学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		宇宙科学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○			1							
		宇宙科学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			1							
		化学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○			1							
		化学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			1							
		物理学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○			1							
		物理学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			1							
		数学Ⅰa	1・2・3・4前	2		○			1							
		数学Ⅰb	1・2・3・4後	2		○			1							
		数学Ⅱa	1・2・3・4前	2		○			1							
		数学Ⅱb	1・2・3・4後	2		○			1							
		数学Ⅲa	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		数学Ⅲb	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		数学Ⅳa	1・2・3・4前	2		○			1							
		数学Ⅳb	1・2・3・4後	2		○			1							
自然誌Ⅰ		1・2・3・4前	2		○			1								
自然誌Ⅱ		1・2・3・4後	2		○			1								
自然環境論Ⅰ		1・2・3・4前	2		○			4						兼2		
自然環境論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			4						兼2			
地球科学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○			1						兼2			
地球科学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			1						兼2			
生物学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○			1						兼1			
生物学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			1						兼1			
自然観察実習	1・2・3・4前・後	2					○	1								
ライフデザイン分野	コンピュータ基礎	1・2・3・4前・後	2		○			2							兼5	
	コンピュータ応用Ⅰ	1・2・3・4前	2		○			1								
	コンピュータ応用Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			1								
	新生セミナー	1前	2		○			3	1	1						
	キャリアを考えるⅠ	2前	2		○										兼1	
	キャリアを考えるⅡ	2後	2		○										兼1	
	ITリテラシーA	1・2・3・4前	2		○			1								
	ITリテラシーB	1・2・3・4後	2		○			1								
	ITリテラシーC	1・2・3・4前	2		○			1								
	ITリテラシーD	1・2・3・4後	2		○			1								
メディアと文化入門	1・2・3・4前	2		○				1						兼1		
メディアと文化発展	1・2・3・4後	2		○				1						兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教 養 教 育 科 目	コミュニケーション文化入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	コミュニケーション文化発展	1・2・3・4後		2		○									兼1	
ラ イ フ デ ザ イ ン 分 野	ライフデザイン入門	1・2前・後		2		○			1						兼1	
	駒澤大学の歴史	1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
	世田谷6大学連携総合講座Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	世田谷6大学連携総合講座Ⅱ	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	世田谷6大学連携総合講座Ⅲ	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	世田谷6大学連携総合講座Ⅳ	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	世田谷6大学連携総合講座Ⅴ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	基礎演習	2通		4			○		3	1	1					
	全 学 共 通 科 目	英語ⅠAa	1前		1			○								兼6
		英語ⅠAb	1後		1			○								兼7
英語ⅠBa		1前		1			○			2					兼5	
英語ⅠBb		1後		1			○			2					兼5	
ドイツ語ⅠAa		1前		1			○				1					
ドイツ語ⅠAb		1後		1			○				1					
ドイツ語ⅠBa		1前		1			○				1					
ドイツ語ⅠBb		1後		1			○				1					
フランス語ⅠAa		1前		1			○								兼2	
フランス語ⅠAb		1後		1			○								兼2	
フランス語ⅠBa		1前		1			○								兼2	
フランス語ⅠBb		1後		1			○								兼2	
中国語ⅠAa		1前		1			○		2						兼1	
中国語ⅠAb		1後		1			○		2						兼1	
中国語ⅠBa		1前		1			○		2						兼1	
中国語ⅠBb		1後		1			○		2						兼1	
スペイン語ⅠAa		1前		1			○								兼3	
スペイン語ⅠAb		1後		1			○								兼3	
スペイン語ⅠBa		1前		1			○								兼3	
スペイン語ⅠBb		1後		1			○								兼3	
ロシア語ⅠAa		1前		1			○								兼1	
ロシア語ⅠAb		1後		1			○			1						
ロシア語ⅠBa		1前		1			○								兼1	
ロシア語ⅠBb		1後		1			○								兼1	
英語ⅡAa		2前		1			○								兼7	
英語ⅡAb		2後		1			○								兼7	
英語ⅡBa		2前		1			○								兼7	
英語ⅡBb		2後		1			○								兼7	
ドイツ語ⅡAa		2前		1			○			1						
ドイツ語ⅡAb		2後		1			○			1						
ドイツ語ⅡBa		2前		1			○								兼1	
ドイツ語ⅡBb		2後		1			○								兼1	
フランス語ⅡAa		2前		1			○								兼1	
フランス語ⅡAb		2後		1			○								兼1	
フランス語ⅡBa		2前		1			○			1						
フランス語ⅡBb		2後		1			○			1						
中国語ⅡAa		2前		1			○		1	1					兼1	
中国語ⅡAb		2後		1			○		1	1					兼1	
中国語ⅡBa		2前		1			○								兼2	
中国語ⅡBb		2後		1			○								兼2	
スペイン語ⅡAa		2前		1			○		1						兼1	
スペイン語ⅡAb		2後		1			○		1						兼1	
スペイン語ⅡBa	2前		1			○								兼1		
スペイン語ⅡBb	2後		1			○								兼1		
ロシア語ⅡAa	2前		1			○								兼1		
ロシア語ⅡAb	2後		1			○								兼1		
ロシア語ⅡBa	2前		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学 共通 科目	ロシア語ⅡBb	2後		1				○									兼1
	実用英会話（日常生活編）	1・2・3・4前		1				○							1		兼5
	実用英会話（旅行編）	1・2・3・4後		1				○							1		兼5
	実用英語資格試験Ⅰa（聴解）	1・2・3・4前		1				○							1		兼1
	実用英語資格試験Ⅰb（文法・読解）	1・2・3・4前		1				○			1						兼1
	ビジネス英語Ⅰ	1・2・3・4前		1				○									兼2
	実用英語資格試験Ⅱa（聴解）	1・2・3・4前		1				○									兼1
	実用英語資格試験Ⅱb（文法・読解）	1・2・3・4前		1				○			1						
	ビジネス英語Ⅱ	1・2・3・4後		1				○									兼2
	英語プレゼンテーション（実践）	2・3・4前		1				○		1	1						兼1
	英語プレゼンテーション（応用）	2・3・4後		1				○		1	1						兼1
	英語ディスカッションⅠa	1・2・3・4前		1				○									兼2
	英語ディスカッションⅠb	1・2・3・4後		1				○									兼2
	学術英語資格試験Ⅰa（読解）	1・2・3・4前		1				○									兼1
	学術英語資格試験Ⅰb（聴解・会話）	1・2・3・4前		1				○			1						
	英語アカデミック・ライティングⅠa	1・2・3・4前		1				○									兼1
	英語アカデミック・ライティングⅠb	1・2・3・4後		1				○									兼1
	実用英語資格試験Ⅲa（聴解）	1・2・3・4前		1				○									兼1
	実用英語資格試験Ⅲb（文法・読解）	1・2・3・4後		1				○									兼1
	英語ディスカッションⅡa	1・2・3・4前		1				○		1							
	英語ディスカッションⅡb	1・2・3・4後		1				○		1							
	学術英語資格試験Ⅱa（読解）	1・2・3・4前		1				○					1				
	学術英語資格試験Ⅱb（聴解・会話）	1・2・3・4後		1				○					1				
	英語アカデミック・ライティングⅡ	1・2・3・4前		1				○			1						
	英語多読・多聴a	1・2・3・4前		1				○			2						
	英語多読・多聴b	1・2・3・4後		1				○			2						
	英語クリエイティブ・ライティング	1・2・3・4前		1				○			1						兼1
	パフォーマンス・イン・イングリッシュ	1・2・3・4前		1				○									兼2
	学術英語読解a	1・2・3・4前		2				○			1	1					兼1
	学術英語読解b	1・2・3・4後		2				○			1	1					兼1
	英語で学ぶ教養（言語Ⅰ）	1・2・3・4前		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（言語Ⅱ）	1・2・3・4後		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（言語Ⅲ）	1・2・3・4前		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（言語Ⅳ）	1・2・3・4後		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（言語Ⅴ）	1・2・3・4前		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（言語Ⅵ）	1・2・3・4後		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（言語Ⅶ）	1・2・3・4前		2				○		1							
	英語で学ぶ教養（言語Ⅷ）	1・2・3・4後		2				○		1							
	英語で学ぶ教養（文化Ⅰ）	1・2・3・4前		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（文化Ⅱ）	1・2・3・4後		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（文化Ⅲ）	1・2・3・4前		2				○					1				
	英語で学ぶ教養（文化Ⅳ）	1・2・3・4後		2				○					1				
	英語で学ぶ教養（文化Ⅴ）	1・2・3・4前		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（文化Ⅵ）	1・2・3・4後		2				○			1						
	英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅰ）	1・2・3・4前		2				○		1							
	英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅱ）	1・2・3・4後		2				○		1							
	英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅲ）	1・2・3・4前		2				○		1							
	英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅳ）	1・2・3・4後		2				○		1							
	英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅴ）	1・2・3・4前		2				○				1					
	英語で学ぶ教養（歴史と社会Ⅵ）	1・2・3・4後		2				○				1					
ドイツ語ⅠAa（選）	1・2・3・4前		1					○									兼1
ドイツ語ⅠAb（選）	1・2・3・4後		1					○									兼1
ドイツ語ⅠBa（選）	1・2・3・4前		1					○									兼1
ドイツ語ⅠBb（選）	1・2・3・4後		1					○									兼1
ドイツ語Ⅱa（選）	2・3・4前		1					○				1					
ドイツ語Ⅱb（選）	2・3・4後		1					○				1					
ドイツ語コミュニケーションAa	2・3・4前		1					○									兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通 科目	ドイツ語コミュニケーションAb	2・3・4後		1				○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションBa	2・3・4前		1				○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションBb	2・3・4後		1				○								兼1
	名文で味わうドイツ語a	3・4前		2			○				1					
	名文で味わうドイツ語b	3・4後		2			○				1					
	現代を読むドイツ語a	3・4前		2			○				1					
	現代を読むドイツ語b	3・4後		2			○				1					
	ドイツ語スキルアップa	2・3・4前		1					○							兼1
	ドイツ語スキルアップb	2・3・4後		1					○							兼1
	フランス語 I Aa (選)	1・2・3・4前		1					○			2				
	フランス語 I Ab (選)	1・2・3・4後		1					○			2				
	フランス語 I Ba (選)	1・2・3・4前		1					○			1				
	フランス語 I Bb (選)	1・2・3・4後		1					○			1				
	フランス語 II a (選)	2・3・4前		1					○			1				
	フランス語 II b (選)	2・3・4後		1					○			1				
	フランス語コミュニケーションAa	2・3・4前		1					○							兼1
	フランス語コミュニケーションAb	2・3・4後		1					○							兼1
	フランス語コミュニケーションBa	2・3・4前		1					○							兼1
	フランス語コミュニケーションBb	2・3・4後		1					○							兼1
	名文で味わうフランス語a	3・4前		2				○			1					
	名文で味わうフランス語b	3・4後		2				○			1					
	現代を読むフランス語a	3・4前		2				○			1					
	現代を読むフランス語b	3・4後		2				○			1					
	フランス語スキルアップa	2・3・4前		1					○			1				
	フランス語スキルアップb	2・3・4後		1					○			1				
	中国語 I Aa (選)	1・2・3・4前		1					○			1				兼1
	中国語 I Ab (選)	1・2・3・4後		1					○			1				兼1
	中国語 I Ba (選)	1・2・3・4前		1					○							兼1
	中国語 I Bb (選)	1・2・3・4後		1					○							兼1
	中国語 II a (選)	2・3・4前		1					○							兼1
	中国語 II b (選)	2・3・4後		1					○							兼1
	中国語コミュニケーションAa	2・3・4前		1					○			1				
	中国語コミュニケーションAb	2・3・4後		1					○			1				
	中国語コミュニケーションBa	2・3・4前		1					○							兼1
	中国語コミュニケーションBb	2・3・4後		1					○							兼1
	名文で味わう中国語a	3・4前		2				○			1					
	名文で味わう中国語b	3・4後		2				○			1					
	現代を読む中国語a	3・4前		2				○			1					
	現代を読む中国語b	3・4後		2				○			1					
	中国語スキルアップa	2・3・4前		1					○							兼1
	中国語スキルアップb	2・3・4後		1					○							兼1
	スペイン語 I Aa (選)	1・2・3・4前		1					○							兼1
	スペイン語 I Ab (選)	1・2・3・4後		1					○							兼1
	スペイン語 I Ba (選)	1・2・3・4前		1					○							兼1
	スペイン語 I Bb (選)	1・2・3・4後		1					○							兼1
	スペイン語 II a (選)	2・3・4前		1					○							兼1
	スペイン語 II b (選)	2・3・4後		1					○							兼1
	スペイン語コミュニケーションAa	2・3・4前		1					○							兼1
	スペイン語コミュニケーションAb	2・3・4後		1					○							兼1
	スペイン語コミュニケーションBa	2・3・4前		1					○							兼1
スペイン語コミュニケーションBb	2・3・4後		1					○							兼1	
名文で味わうスペイン語a	3・4前		2				○			1						
名文で味わうスペイン語b	3・4後		2				○			1						
現代を読むスペイン語a	3・4前		2				○				1					
現代を読むスペイン語b	3・4後		2				○				1					
スペイン語スキルアップa	2・3・4前		1					○			1					
スペイン語スキルアップb	2・3・4後		1					○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
全学 共通科目	ロシア語 I Aa (選)	1・2・3・4前		1				○									兼1	
	ロシア語 I Ab (選)	1・2・3・4後		1				○									兼1	
	ロシア語 I Ba (選)	1・2・3・4前		1				○									兼1	
	ロシア語 I Bb (選)	1・2・3・4後		1				○									兼1	
	ロシア語 II a (選)	2・3・4前		1				○									兼1	
	ロシア語 II b (選)	2・3・4後		1				○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションAa	2・3・4前		1				○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションAb	2・3・4後		1				○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションBa	2・3・4前		1				○									兼1	
	ロシア語コミュニケーションBb	2・3・4後		1				○									兼1	
	名文で味わうロシア語a	3・4前		2			○				1							
	名文で味わうロシア語b	3・4後		2			○				1							
	現代を読むロシア語a	3・4前		2			○				1							
	現代を読むロシア語b	3・4後		2			○				1							
	ロシア語スキルアップa	2・3・4前		1				○									兼1	
	ロシア語スキルアップb	2・3・4後		1				○									兼1	
	朝鮮語 I Aa (選)	1・2・3・4前		1					○								兼1	
	朝鮮語 I Ab (選)	1・2・3・4後		1					○								兼1	
	朝鮮語 I Ba (選)	1・2・3・4前		1					○								兼1	
	朝鮮語 I Bb (選)	1・2・3・4後		1					○								兼1	
	朝鮮語 II a (選)	2・3・4前		1					○								兼1	
	朝鮮語 II b (選)	2・3・4後		1					○								兼1	
	外国文化a	1・2・3・4前		2			○				1							
	外国文化b	1・2・3・4後		2			○				1							
	全学 共通科目	健康・スポーツ実習	1通	2					○		5	4	2					
		生涯スポーツ実習 I (前期・基礎)	1前		1				○			2	2					
生涯スポーツ実習 II (前期・基礎)		2前		1				○			2	2						
生涯スポーツ実習 III (前期・基礎)		3前		1				○			2	2						
生涯スポーツ実習 IV (前期・基礎)		4前		1				○			2	2						
生涯スポーツ実習 I (後期・基礎)		1後		1				○			2	2						
生涯スポーツ実習 II (後期・基礎)		2後		1				○			2	2						
生涯スポーツ実習 III (後期・基礎)		3後		1				○			2	2						
生涯スポーツ実習 IV (後期・基礎)		4後		1				○			2	2						
生涯スポーツ実習 I (前期・応用)		1前		1				○			1	2						
生涯スポーツ実習 II (前期・応用)		2前		1				○			1	2						
生涯スポーツ実習 III (前期・応用)		3前		1				○			1	2						
生涯スポーツ実習 IV (前期・応用)		4前		1				○			1	2						
生涯スポーツ実習 I (後期・応用)		1後		1				○			1	2						
生涯スポーツ実習 II (後期・応用)		2後		1				○			1	2						
生涯スポーツ実習 III (後期・応用)		3後		1				○			1	2						
生涯スポーツ実習 IV (後期・応用)		4後		1				○			1	2						
生涯スポーツ演習 I (シーズン基礎A)		1・2・3・4通		2					○			1						
生涯スポーツ演習 I (シーズン基礎B)		1・2・3・4通		2					○			1						
生涯スポーツ演習 I (シーズン応用A)		1・2・3・4通		2					○			1						
生涯スポーツ演習 I (シーズン応用B)		1・2・3・4通		2					○			1						
生涯スポーツ演習 II (シーズン基礎A)		1・2・3・4通		2					○		1							
生涯スポーツ演習 II (シーズン基礎B)		1・2・3・4通		2					○		1							
生涯スポーツ演習 II (シーズン応用A)		1・2・3・4通		2					○		1							
生涯スポーツ演習 II (シーズン応用B)		1・2・3・4通		2					○		1							
健康・スポーツ論1		1・2・3・4前・後		2			○				4	2						
健康・スポーツ論2	1・2・3・4前・後		2			○					1	2						
小計 (331科目)		—	6	573				—		51	24	9	1	0		兼164		
専門 教育 科目	仏教学入門	1通	4					○		2								
	仏教漢文入門	1通	4					○		1	2	1				兼1		
	宗典	2通	4					○		2								
	坐禅 I	2通	4							3								
	宗教学概論	2通	4					○		1		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 教 育 科 目	仏教思想概説	3通	4			○			1						
	演習Ⅰ	3通	4					○	18	2	3				
	演習Ⅱ	4通	4					○	18	2	3				
	卒業論文	4	8												
	インド仏教史	1・2通		4			○					1			
	中国仏教史	1・2通		4			○		1						
	日本仏教史	1・2通		4			○		1						
	中国禅宗史	1・2通		4			○		1						
	日本禅宗史	1・2通		4			○		1						
	東南アジア仏教史	2通		4			○								兼1
	チベット仏教史	2通		4			○			1					
	韓国仏教史	2通		4			○			1					兼1
	パーリ語初級	2・3通		4			○								兼1
	サンスクリット語初級	2・3通		4			○			1					
	チベット語初級	2・3通		4			○			1					
	漢文講読Ⅰ	2・3通		4			○			1					
	宗教史	2・3通		4			○								兼1
	仏教美術史	2・3通		4			○			1					
	インド哲学史	2・3通		4			○			1					
	中国哲学史	2・3通		4			○								兼1
	仏教研究A	3・4通		4			○			1					
	仏教研究B	3・4通		4			○					1			
	仏教研究C	3・4通		4			○			1					
	宗教学研究	3・4通		4			○								兼1
	仏教美術研究	3・4通		4			○			1					
	仏典講読Ⅰ	3・4通		4			○				1				
	仏典講読Ⅱ	3・4通		4			○				1				
	仏典講読Ⅲ	3・4通		4			○			1					
	漢文講読Ⅱ	3・4通		4			○			1					
	英文仏書講読	3・4通		4			○			1					
	仏教学セミナー	1後		2			○			3	1	1			
	仏教文化史	1・2・3・4通		4			○					1			
	禅文化史	1・2・3・4通		4			○					1			
	インド仏教思想史	1・2・3・4通		4			○			1					
	中国仏教思想史	1・2・3・4通		4			○				1				
	日本仏教思想史	1・2・3・4通		4			○				1				
	日用経典	1・2・3・4通		4			○			1					
	禅美術	2・3・4通		4			○			1					
	禅心理学	2・3・4通		4			○								兼1
	仏教文献学	2・3・4通		4			○								兼1
	仏教民俗学	2・3・4通		4			○					1			
	仏教と社会	2・3・4通		4			○			1					
	原始仏教	2・3・4通		4			○			1					
	浄土学概論	2・3・4通		4			○								兼1 隔年
	真宗学概論	2・3・4通		4			○								兼1 隔年
	真言学概論	2・3・4通		4			○								兼1 隔年
	日蓮教学概論	2・3・4通		4			○								兼1 隔年
神道概説	2・3・4通		4			○								兼1 隔年	
新宗教概説	2・3・4通		4			○								兼1 隔年	
キリスト教概論	2・3・4通		4			○								兼1	
イスラム教概論	2・3・4通		4			○								兼1	
哲学概説	2・3・4通		4			○								兼1	
宗教哲学	2・3・4通		4			○			1						
心理学概論Ⅰ	2・3・4前		2			○			1						
心理学概論Ⅱ	2・3・4後		2			○			1						
パーリ語上級	2・3・4通		4			○								兼1	
サンスクリット語上級	2・3・4通		4			○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	チベット語上級	2・3・4通		4		○			1							
	法式実習	4通		4				○	1							
	漢詩作法	2・3・4通		4		○										兼1
	書道	2・3・4通		4				○								兼1
	宗教教育	2・3・4通		4		○										兼1
	青少年問題研究	2・3・4通		4		○										兼1
	宗教法概説	2・3・4通		4		○										兼1
	禅学特講ⅠA	2・3・4前		2		○										兼1
	禅学特講ⅡB	2・3・4後		2		○										兼1
	禅学特講ⅢA	2・3・4前		2		○										兼1
	禅学特講ⅣB	2・3・4後		2		○										兼1
	仏教特講ⅠA	2・3・4前		2		○										兼1
	仏教特講ⅡB	2・3・4後		2		○										兼1
	仏教特講ⅢA	2・3・4前		2		○										兼1
	仏教特講ⅣB	2・3・4後		2		○										兼1
	坐禅Ⅱ	3・4通		4				○	1							
	禅学研究A	3・4通		4		○			1							
	禅学研究B	3・4通		4		○			1							
	禅学研究C	3・4通		4		○			1							
	禅籍講読Ⅰ	3・4通		4		○			1							
禅籍講読Ⅱ	3・4通		4		○			1								
禅籍講読Ⅲ	3・4通		4		○			1								
小計 (84科目)		—	40	278			—	22	2	3	0	0			兼21	
合計 (415科目)		—	46	851			—	55	24	9	1	0			兼184	
学位又は称号	学士 (仏教学)		学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
大学に4年以上在学し、卒業に必要な単位(124単位)を修得した者。 履修科目の登録の上限：49単位								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(仏教学研究科仏教学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義 科 目	宗学特講Ⅰ 【講義】	江戸時代を中心に曹洞宗の基本文献を概説しつつ、曹洞宗学の成立や特徴について講義する。曹洞宗学を学ぶための基礎知識を身につけることを目的とする。	
	宗学特講Ⅱ 【講義】	曹洞宗に関わる文献の研究を行う。この科目では、特に道元禅師の著作を取り上げる。まず、その文献の成立や書誌など、文献学的研究を行い、その後、思想的・内容的研究を行う。これらについては、伝統的解釈やこれまでの研究成果を尊重しながらも、あくまでも文献に基づいて、既成概念にとらわれることなく、自由な議論を行いながら進めてゆく。また、道元禅師の思想について、修証観・修道論・世界観・時間論・因果論・仏性論・教化論・言語観等、さまざまな論点から、道元禅師の著作に見られる教説に依りながら考察し、延いては、これら道元禅師の思想を現代社会にどのように活かしていくことができるかについても議論していく。	隔年
	宗学特講Ⅲ 【講義】	道元禅師の著述を読む。特に、『永平広録』や『知事清規』など、漢文で書かれた著述を中心に演習形式で読み進める。そこから、仮名『正法眼蔵』では見えてこない道元禅師の特徴を探り、道元思想を、その著述全般から総体的に考察する能力を身につけることが目標である。また、工具書の解説等も行い、「語録」という禅宗独自の媒体に対する読解力を身に付けることも意図する。講読するテキストは、年度毎に最初の講義に於いて指示する。	
	宗教学特講 【講義】	宗教学の基礎となる文献や論文を紹介し、その読解を通じて問題意識の共有化を行い、ディスカッションを通じて学ぶ。前期は宗教学の古典的な文献を取り上げ、後期は日本の宗教学的研究を取り上げることで、宗教学の基礎的な知識や学問的な枠組みについての理解を深める。	
	禅学特講Ⅰ 【講義】	禅宗におけるさまざまな戒律・清規文献の内容を検討しつつ、成立の過程を考察する。まずはこの講義の目標及びテーマを概説し、テキストの予備知識として各本の系統を確認、把握する。テキストを読み進めて行く際には、上述の点を意識して、関係する資料を丁寧に確認していきたい。この講義では、変遷の経緯を研究・確認していき、ルールの時代性と柔軟性を理解することを目標とする。また、この調査・研究に必要な文献の扱い方や、古文書の解読方法の技術を習得することも一つの目標となる。	隔年
	禅学特講Ⅱ 【講義】	江戸期の卍山道白（1636～1715）らを中心にした嗣法制度改革運動は、曹洞宗の教団・教義の両面にわたって重要な問題を提起し、以降さまざまな宗学的議論がおこなわれた。その具体的経緯を確認しながら、提起された論点の意義・内容について、関係文献を講読しながら検討確認する。特に、卍山の立場を批判した天柱伝尊（1648～1735）の『正法眼蔵弁註』『面授』を中心にした諸文献を講読することで、嗣法論の展開と『正法眼蔵』の解釈に基づく宗義の思想的展開について検討する。	
	インド仏教特講Ⅲ 【講義】	インド仏教、とくに大乘仏教と密教に焦点を当てて、関連する原典を繙きながら、歴史的展開をつかむ。序盤ではインド仏教において大乘仏教が生まれてくる背景を確認し、その次に大乘仏教の誕生、さらにその中で発生した如来蔵思想の展開、そしてその展開の先に位置づけられる密教の成立と発展、ついにはインドにおける仏教史の終焉にいたるまで、相互の有機的連結に注意しながら、一連のインドの仏教の思想史・教団史の展開の流れを追ってゆく。	
	インド哲学特講 【講義】	サンスクリット語などで書かれた仏教文献を含むインドの基本的古典的な作品を原典に即して綿密に講読する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義科目	チベット仏教特講Ⅰ【講義】	チベット仏教の特徴の一つは、「大乘仏教の思想的潮流の一つである中観思想を最高のものとする」ということである。これを別な表現で言い換えるならば、チベット仏教においては、中観思想が了義の教え、すなわち究極的な教えであり、その他の教えはすべて中観思想を理解するために用意された未了義すなわち暫定的な教えということである。つまり、チベットにおいては、どんな思想形態を持った仏教であろうと、その正統性を主張しようとするならば、それが中観思想であることを標榜しなければならなかった。この講義においては、チベット仏教において、様々な宗派或は部派が自らの教義の正統性をどのように主張していったかを教理的な側面ばかりでなく、教団相互の政治的闘争という側面も視野にいれ、チベット仏教を広い視野の下で把握したい。	隔年
	チベット仏教特講Ⅱ【講義】	『俱舎論』は、広範囲の仏教国で、珍重された。日本でも、枕草子に引用されるほど、お馴染みの書物である。明治から大正にかけて、ローゼンベルグというロシア人が、『俱舎論』研究の場として選んだのは日本であった。彼は、4年程滞在した。その他にも、この書を巡っては、様々な伝承、噂が渦を巻き、百家争鳴の状況である。原典や諸注釈についての書誌学的情報は多いし、思想的な見方も錯綜している。そのような諸々のことを講義し、『俱舎論』という書物の面白さを伝えたい。	
	中国仏教特講Ⅰ【講義】	唯識思想を中国に伝えた玄奘(602-664)の事跡を中心に、瑜伽行唯識派の歴史的展開や、心識説や三性説などの唯識教義の発展過程、唯識思想と如来蔵思想との交渉などを、文献学的ないし思想史的方法を中心に考察する。主な資料として、史伝では『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』『続高僧伝』『大唐西域記』など、論書では『瑜伽師地論』『撰大乘論』『成唯識論』のほか『大乘起信論』『華嚴五教章』などを精読する。	
	中国仏教特講Ⅲ【講義】	中国隋代に三論学派(三論宗)を大成した嘉祥大師吉蔵(549-623)の教学を中心に同時代の浄影寺慧遠(523-592)、天台大師智顛(538-597)等の教学にも目を配りながら、あわせて先行する仏教者の各種学説も意識して講義を行う。	隔年
	中国禅宗史特講Ⅰ【講義】	主要な文献を年代順に選読しながら、中国禅宗の思想史をたどる。	
	中国禅宗史特講Ⅱ【講義】	敦煌遺書から出現した敦煌禅宗文献は、初期禅宗史研究に長足の進展をもたらした。今年度はまず敦煌禅宗文献の内容や構成などを概観してから、禅宗史の時代区分に沿って個々の禅籍の研究史を講じていく。	
	日本仏教特講Ⅱ【講義】	日本仏教史における典型的著作を中心に講義する。各時代における仏教の諸相を、その時代に生きた作者の視点から考察すると共に、その時代的背景を踏まえながらその意義を明らかにする。	
	日本禅宗史特講Ⅰ【講義】	この授業は日本の禅宗の歴史に関する講義である。特に中世の臨済宗・曹洞宗の禅僧の語録や詩文集、さらには伝記史料などを踏まえて講義を行い、日本の歴史や文化に大きな影響を及ぼした禅僧たちの足跡を辿ることしたい。	隔年
	仏教学特講Ⅱ【講義】	東アジア仏教に大きな影響を与え、真偽をめぐって論争が続いている『大乘起信論』をとりあげ、その成立事情と東アジア諸国における受容形態について検討する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義科目	仏教学特講Ⅲ【講義】	日本古来の山岳信仰は、外来の仏教・道教・儒教、在来の神道、シャーマニズムなどとの交流を通して修験道を形成するに至った。したがってそこには、日本人が培ってきた宗教意識の特徴を探る上でのきわめて重要な鍵が内包されている。また、天台・真言両密教をはじめとする日本仏教の展開史を理解するに際しても、山岳信仰・修験道の影響を十分に考慮する必要がある。本講義では、日蓮宗、曹洞宗などの思想や儀礼に関する諸史料を対象にして、その読解を試みる。	
	仏教美術史特講【講義】	中国南北朝期における石窟内の仏教美術について、関連文献の『梁高僧伝』、『魏書』やモチーフに関わる経典を読解しながら、図像的な特徴を捉えていく。特に日本の仏教美術に影響を与えたと考えられる作品を中心に考察したい。一つの造像が他の地域に伝わると、その時代、地域の状況によって表現上の変化をおこす。講義では、まず広大な中国国内での図像における変容について考察し、その原因を信仰史・社会史の中で捉えていきたいと考えている。	隔年
	宗教人類学特講【講義】	人類学を中心にその他宗教学や社会学などにおける宗教研究の諸相について、以下の3点を学習する。1、文化人類学や宗教学・社会学などの隣接分野が、どのように「宗教」を捉えてきたか、その視点やテーマを知る。古典的な視点・テーマから、現代の視点・テーマまで幅広く学び、宗教人類学の基礎知識を身に付ける。2、宗教人類学に関わる人類学の諸理論を学び、その思考様式を理解し活用できるようにする。3、タイやミャンマーなど東南アジアの上座仏教研究の事例について学び、日本の宗教を見る際の視野を広げる。	
演習科目	宗学特講Ⅰ【演習】	曹洞宗学において最も重要で基本的な『正法眼蔵』について、その注釈史を学びつつ、注釈書類を対象として演習を行う。当然、文献読解の方法を身につけることが目的となる。	
	宗学特講Ⅱ【演習】	『正法眼蔵』の諸巻を読む。まず諸写本と対校して本文を確定し、語注・出典・直訳・意識を作成する。『正法眼蔵』は非常に難解であり、理解できない部分も多々あるが、用語の解釈や出典調べはもちろん、さまざまな資料や情報を収集して、皆で考えながら読解を試みる。あらかじめ『正法眼蔵』の本文を受講生に分担し、その分担箇所を各自担当して研究し、発表資料を作成し、その研究成果を作成資料にもとづいて授業において発表してもらい、共に考えながら読解していく。とにかく『正法眼蔵』の本文にしっかり向き合い、理解できるまで深く思考することが重要であり、それによって『正法眼蔵』を読解することの難しさと楽しさを味わう。	
	宗学特講Ⅲ【演習】	仮字『正法眼蔵』の内容を、その他の道元禅師の著述と関連づけつつ演習する。主に大正新修大蔵経データベース(SAT)を活用しつつ、和文テキストに英訳を対比させる作業を行いながら、禅の国際化についての基礎概念を身につけられるような演習を行う。はじめに、仮字『正法眼蔵』の書誌および禅思想史上における位置づけ等について一通りの解説をしたのち、本文の演習に入る。講読する巻は、年度毎に最初の講義時に指示する。	
	宗教学特講【演習】	宗教学の基礎となる文献や論文の読解と研究に必要な調査方法、発表方法を指導する。	
	禅学特講Ⅰ【演習】	禅宗における戒律・清規文献を精読する。まずはテキストの予備知識としてその文献が影響を受けた可能性のある思想背景を考える。以降、段落毎に受講者に担当を割り振って演習を行う。日本中世の禅宗における戒の捉え方・意義を学ぶことが大きなテーマである。宗派ごとの相違や時代による変化を調査・意識しつつ、中世禅宗の戒や清規の解釈の独自性を炙り出し、禅宗の儀礼が日本仏教、ひいては日本文化の歴史に与えてきた影響を考え、把握・検証することを目標とする。	
	禅学特講Ⅱ【演習】	日本曹洞宗において宗旨参究にあたって用いられた偏正五位説は、近世江戸期に明末清初の永覚元賢(1578~1657)による『洞上古轍』が流布し、そこで「参同契」「宝鏡三昧」とならんで曹洞の「古轍」として註解されることによって、嗣法制度改革を契機とした宗義の再構築の傾向と相俟って脚光を浴びることになる。『洞上古轍』の立場に対し独自の批判的視点を提示する天桂伝尊(1648~1735)の『報恩編』を中心にして、近世江戸期の宗学論の展開を検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	インド仏教特講Ⅰ 【演習】	インド仏教の研究のために必要な周辺の領域の文献を読む授業です。宗教としてはとくにジャイナ教、言語としてはアルダマーガディーなどのプラークリット（中期インド語）が中心となります。ジャイナ教の聖典・非聖典文献（注釈書・教義綱要書・説話文献など）の中から何をテキストとして取り上げるかについては、できるだけ受講者に配慮したいと思います。	
	インド仏教特講Ⅲ 【演習】	既刊・未刊の仏典のサンスクリット本を適宜可読な形に直しながら校訂本を制定する。サンスクリット原典を輪読形式で読解する。したがって参加者は全員、予習が必須となる。原典を文法および用例に則って正しく読み解き、時には批判的な視座から原典を解読する視点が要求される。テキストについては、如来蔵から密教にいたるまでの仏典をサンスクリット原典で読み解き、両者の思想的なつながりについても、大局的に把握する姿勢を養う。	
	インド哲学特講 【演習】	サンスクリット語で書かれたヒンドゥー教の基本的な宗教文献、哲学文献、文学作品を原典に即して綿密に講読する。	
	チベット仏教特講Ⅰ 【演習】	チベット仏教の歴史は、前期伝播時代と後期伝播時代の二つに大きく分けられる。前期伝播時代は中観自立派が支配的であった時代であり、一方後期伝播時代では、その中観自立派の思想よりも中観帰謬派の思想を優れたものとみなした時代であった。後期伝播時代に現れたゲルク派の開祖・ツォンカバは自他共に認める中観帰謬派の論者でありながらも、他方ことばや分別を重視する点においては中観自立派に近い態度を標榜した。この演習では、ツォンカバは中観帰謬派とか中観自立派という枠に限定されない、敢えて言えば、第三の中観思想の体系を築き上げたことを、彼の様々なテキストを基に確認していきたい。	
	チベット仏教特講Ⅱ 【演習】	仏教思想の淵源は、言うまでもなく、インドである。しかし、インド仏教は、全面的に他の国に受け入れられたのではない。咀嚼され、改変された部分も多い。インドでは、4-5世紀頃から、理屈重視の仏教学が始まった。だが、それは、我が国や中国で花開くことはなかった。一方、我が国の仏教とは、異質の仏教が、インドでは終末期まで、隆盛を極めたのであった。そのような理屈重視の仏教を形作ったのは、インド僧、世親・陳那・法称達である。彼らの思想を探っていき、我が国の仏教を顧みたい。	
	中国仏教特講Ⅰ 【演習】	唯識思想を中国に伝えた玄奘（602-664）の事跡を中心に、瑜伽行唯識派の歴史的展開や、心識説や三性説などの唯識教義の発展過程、唯識思想と如来蔵思想との交渉などを、文献学的ないし思想史的方法を中心に考察する。主な資料として、史伝では『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』『続高僧伝』『大唐西域記』など、論書では『瑜伽師地論』『撰大乘論』『成唯識論』のほか『大乘起信論』『華嚴五教章』などを精読する。	
	中国仏教特講Ⅲ 【演習】	講義科目「中国仏教特講Ⅲ」と連動させるかたち、実際に講読文献を選定し、純然たる演習として当番を決めて文献講読を行う。	
	中国禪宗史特講Ⅰ 【演習】	中国禪宗文献読解の基礎的訓練を行う。唐宋代の口語の語彙と語法に即して禪宗文献を精確に読み解けるようになることを目指す。	
	中国禪宗史特講Ⅱ 【演習】	今年度は禪系の偽経の一種である『金剛三昧経』を取り上げ、敦煌写本に基づくテキストの作成を目指す。まずは『金剛三昧経』に関する従来の研究成果、敦煌写本などを概観し、予備知識として写本に基づくテキスト校訂の基本方法を紹介する。そして以降、『金剛三昧経』の本文内容順に履修者に担当を割り振ってテキストの校訂と解説の作業を繰り返していく。	
日本仏教特講Ⅱ 【演習】	日本仏教における聖教類（経典・祖録・注釈書）、並びに日本仏教史に関連する史料の講読を中心に講義を行なう。同時代史料との比較検討を行い、史料成立時の解釈を考察すると共に、注釈史的視点からその変容を考察する。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習 科 目	日本禅宗史特講Ⅰ 【演習】	この授業は日本の禅宗の歴史に関する演習である。特に中世の臨済宗・曹洞宗の禅僧の伝記史料を演習購読し、日本の歴史や文化に大きな影響を及ぼした禅僧の足跡を辿ることにしたい。	
	仏教学特講Ⅱ 【演習】	八世紀初頭の北宗禅文献である『楞伽師資記』，および華嚴と禅を学んだ華嚴宗の宗密の諸著作を中心として、禅宗と『楞伽経』の関係、禅宗と地論・華嚴教学の関係について検討する。そうした作業を通じて、インド以来の仏教史と中国思想史における禅宗の位置と意義を明らかにしたい。敦煌写本を読む訓練，コンピュータを使った研究の練習を兼ねる。	
	仏教学特講Ⅲ 【演習】	我が国では古来、山を聖なる空間として崇める観念・信仰を発達させてきた。日本に伝来した仏教のその後の展開を見るならば、こうした山岳信仰との交流を通してもたらされた影響には、きわめて大きなものがあるといえよう。その影響には、たとえば、修験道や土着の山神信仰との習合という日本仏教のもつシンクレティックな形態にうかがうことができる。本演習では、諸宗教の主要な拠点をなす霊山のいくつかを取り上げ、信仰形成の過程と現状について、とくに伝承や縁起、講社組織、周辺地域との関連等に着目して学ぶ。	
	仏教美術史特講 【演習】	美術史の研究は、文献の読解と作例の研究を両輪にして、上手く進めなければならぬといわれる。演習では、中国南北朝の仏教美術史について、図像の変化を考察していくが、常に信仰史と社会史の中で捉えていく意識をもってもらいたい。図像の変容が、単なる制作者の芸術性だけではなく、なるべくしてなった原因があるからである。また実物を観察し、真贋を見極める力も重要である。日ごろから実物を観察する習慣を身につける必要があるため、博物館や美術館、寺院には足しげく通ってもらいたい。	
	宗教人類学特講 【演習】	この演習では、以下の4点について学習する。1、宗教人類学の入門書を古いものから近年のものまで読解し比較する。これにより宗教人類学の基礎知識を身につけるとともに、視点やテーマにどのような変化が起こったのか、それはなぜなのかを考える。2、宗教人類学関係の専門書や論文を読解し、宗教人類学の研究の行い方、視点、理論などを学ぶ。また、古典的研究と近年の研究双方を読むことで、その歴史的展開を捉える。3、調査法の論考を読み、受講者自身の研究に応用する。4、受講者が研究発表を行い、参加者と討論を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(仏教学研究科仏教学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義 科 目	宗学特殊研究Ⅰ 【講義】	『正法眼蔵』の注釈書類を中心として、まだ訳註の施されていない曹洞宗典籍を取り上げ、その訳註作業を行う。参加者の文献学的な読解の力を培うことを目的とする。	
	宗学特殊研究Ⅱ 【講義】	道元禪師の各著述を、それぞれの関連性を意識しながら読み進める。なお、演習に当たって、原典の英訳の比較対象も行うことにより、英語表記の可能性についても検討してゆく。特に、難解とされる仮字『正法眼蔵』について、各種註釈書の注釈傾向を意識しながら参照するとともに、さらに英訳を参照することにより、多角的な分析能力を養うことを目的とする。すべて演習形式とし、選択した資料を適宜読み進めてゆく。引用出典の検索には、インターネット上の電子テキストを積極的に利用するので、その方法等についても、適宜実習を行う。	
	宗学特殊研究Ⅲ 【講義】	仏教は、学ばなくては説くことはできないが、学んでも説くことがなければその存在意義を失う。道元禪師は弘法救生の思いを常に深く心に願われていたと思われるが、仏教を学ぶ者は自ら学び行ずるだけでなく、これと同様の誓願を持たなければならないであろう。道元禪師は比類なき多くの言葉を説き、その言葉は今日まで代々伝えられてきている。しかし、その教えが広く一般社会にも伝えられているかと言えば、残念ながらその方途も努力も乏しい。近代、道元禪師の教説を敷衍すべく、その著作の中から聖句を抜粋・編集して種々の経典が作成され、就中『修証義』は在家化導の教典として明治期以後、曹洞宗檀信徒を中心に広く流布したが、はたして真に道元禪師の仏法の真髓を表証したものと言えるかという疑問である。この講義では、これらの問題について大いに議論し、『修証義』に代わる、現代に相応した新たな教典の編纂の可能性を探りたい。	
	禪学特殊研究Ⅰ 【講義】	禪宗における戒律・清規文献を精読しつつ、より広範に関連資料を渉猟し、その文献に示される思想の成立過程や、後代に与えた影響を探る。必要に応じて、資料調査に足を運び、それまでに得られなかった内容を解明していくことも視野に入れていく。また、実践的な内容については、より正確に動作を把握できるよう、あるいは文献との差異を確認するために、文字だけではなく現代の儀礼の現場も見聞していきたい。	
	インド哲学特殊研究 【講義】	サンスクリット語で書かれたインドの古典的な哲学文献のテキスト批判とテキストの確定、及びそのテキストの一字一句を忽せにしない綿密な批判的講読を展開する。	
	チベット仏教特殊研究Ⅰ 【講義】	インドの大乗仏教においては、すべての事物の非実在性すなわち空性を主張する中観思想が現われ、それに対して、本源的な心に実体性を付与し、その心にもとづいて、それ以外の事物が実在しないことを強調する唯識思想、さらには如来蔵・仏性という実体的な存在を積極的に認める如来蔵思想が現われた。そして、それぞれの思想の信奉者たちは、自分たちこそが釈尊の教えの正しい理解者であること、つまり仏陀の教説の忠実な継承者であることを立証することに鎬を削った。この講義においては、インドの大乗仏教の思想的な潮流が、チベットにおいてどのように受容され、発展し、チベット仏教の特殊な形態が形成されていったかを様々な文献を通して探究してみたい。	
	チベット仏教特殊研究Ⅱ 【講義】	現在「仏教論理学」と称される学問分野がある。聞き慣れないだろうが、今でいう、認識論・論理学と相似している。非常に理屈っぽい学問で、宗教的テーマを理屈の枠組みで処理しようとする。元来、理屈好きのインドでは、この種の学問が、学派を問わず隆盛を迎えた。そして、それを、実質的にリードしていたのは、インドの仏教僧達であった。彼らの思想を、その始原から探り、他宗派との論点を描き出す作業は、まだ未完成であるが、インド思想とは、一体何なのかを明白にするためには、避けて通れない作業でもある。先ず、彼らの中の、ビックネーム、世親・陳那・法称等のテキストを中心に据える。それからインド撰述の注釈や反論書等を参照し、更に、昨今、その重要性が指摘されるチベット人の注釈書まで含めた考察を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義科目	中国仏教特殊研究 I 【講義】	中国におけるインド仏教の受容と展開を研究する。中国では漢代から隋・唐時代にかけて大量の仏典がもたらされ、その翻訳や儒教・道教との交渉を通じて独自の仏教が形成された。また、中国仏教は韓国・日本などの周辺諸国に伝播し、東アジア仏教の思想的・文化的基盤ともなった。この分野を研究する上で必要な文献・歴史・思想・文化に関する方法を、受講生の研究テーマに応じて、文献講読を行いながら研究指導する。	
	中国仏教史特殊研究 【講義】	中国南北朝、隋・唐代の仏教思想に関して、受講生の研究テーマに沿って、文献講読を行いつつ、博士論文の完成に向けて研究指導を行う。研究指導は、論文指導が中心となるので受講生は定期的レポート提出が必須となる。	
	中国禅宗史特殊研究 【講義】	語学的読解の次元を超えて中国禅宗文献の思想史的研究を自力で行えるようになるための訓練を行う。	
	日本仏教特殊研究 【講義】	日本仏教における聖教類(経典・祖録・注釈書)、並びに日本仏教史に関連する史料の講読を中心に講義を行なう。同時代史料との比較検討を行い、史料成立時の解釈を考察すると共に、注釈史的視点からその変容を考察する。	
	日本禅宗史特殊研究 【講義】	この授業は日本の禅宗の歴史に関する講義と研究指導である。特に中世に展開した臨済宗と曹洞宗を課題としており、日本の歴史と文化に大きく影響を及ぼした禅僧について伝記史料や著作語録などを踏まえて指導していく。ただし、指導する大学院生の研究対象に応じて随意に個別の指導を行うものである。	
	仏教学特殊研究 II 【講義】	南北朝から唐代にかけての仏性説・如来蔵説を考えるうえで重要な『仏性論』を検討する。『起信論』との関係に注意しながら梵文『宝性論』と漢訳『仏性論』との関係を比較検討し、あわせてコンピュータによる分析方法についても指導する。	
	宗教学特殊研究 【講義】	宗教学は、諸種の宗教現象を比較・検討し、宗教の本質を客観的・実証的に探究することをめざす。その際に、個々の宗教現象は、それぞれ歴史的な変遷の過程を経て展開してきたといえる。したがって宗教現象は、こうした歴史的背景を通して理解する必要がある。その意味で宗教学と宗教史学は密接にかかわっている。本講義では、宗教史学の観点から日本宗教史に関する従来の研究諸成果を取り上げ、その特徴と課題を追求する。	
	宗教人類学特殊研究 【講義】	この授業では、宗教現象を理解するための1つ視点として、文化人類学および隣接学問領域(宗教学、社会学など)における宗教関連の理論や研究手法を学ぶ。第1に、文化人類学の古典的理論、ならびに近年の文化人類学および隣接学問領域における宗教研究の展開について特定のテーマから考察する。第2に、主に日本以外のアジア地域における文化人類学的な研究を取り上げ、宗教現象に関する研究手法や多様なものの見方を身に着ける。	
研究指導科目	宗学研究指導 I 【研究指導】	『正法眼蔵』の注釈書類を中心として、まだ訳註の施されていない曹洞宗典籍を取り上げ、その訳註作業を行う。参加者の文献学的な読解の力を培うことを目的とする。	
	宗学研究指導 II 【研究指導】	道元禅師の各著述を、それぞれの関連性を意識しながら読み進める。なお、演習に当たって、原典の英訳の比較対象も行うことにより、英語表記の可能性についても検討してゆく。特に、難解とされる仮字『正法眼蔵』について、各種註釈書の注釈傾向を意識しながら参照するとともに、さらに英訳を参照することにより、多角的な分析能力を養うことを目的とする。すべて演習形式とし、選択した資料を適宜読み進めてゆく。引用出典の検索には、インターネット上の電子テキストを積極的に利用するので、その方法等についても、適宜実習を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	宗学研究指導Ⅲ 【研究指導】	仏教は、学ばなくては説くことはできないが、学んでも説くことがなければその存在意義を失う。道元禪師は弘法救生の思いを常に深く心に願われていたと思われるが、仏教を学ぶ者は自ら学び行ずるだけでなく、これと同様の誓願を持たなければならないであろう。道元禪師は比類なき多くの言葉を説き、その言葉は今日まで代々伝えられてきている。しかし、その教えが広く一般社会にも伝えられているかと言えば、残念ながらその方途も努力も乏しい。近代、道元禪師の教説を敷衍すべく、その著作の中から聖句を抜粋・編集して種々の経典が作成され、就中『修証義』は在家化導の教典として明治期以後、曹洞宗檀信徒を中心に広く流布したが、はたして真に道元禪師の仏法の真髓を表証したものと言えるかという疑問である。この講義では、これらの問題について大いに議論し、『修証義』に代わる、現代に相応した新たな教典の編纂の可能性を探りたい。	
	禅学研究指導Ⅰ 【研究指導】	禅宗における戒律・清規文献を精読しつつ、より広範に関連資料を渉猟し、その文献に示される思想の成立過程や、後代に与えた影響を探る。必要に応じて、資料調査に足を運び、それまでに得られなかった内容を解明していくことも視野に入れていく。また、実践的な内容については、より正確に動作を把握できるよう、あるいは文献との差異を確認するために、文字だけではなく現代の儀礼の現場も見聞していきたい。	
	インド哲学研究指導 【研究指導】	サンスクリット語で書かれたインドの古典的な哲学文献のテキスト批判とテキストの確定、及びそのテキストの一字一句を忽せにしない綿密な批判的講読を展開する。	
	チベット仏教研究指導Ⅰ 【研究指導】	インドの大乗仏教においては、すべての事物の非実在性すなわち空性を主張する中観思想が現われ、それに対して、本源的な心に実体性を付与し、その心にもとづいて、それ以外の事物が実在しないことを強調する唯識思想、さらには如来蔵・仏性という実体的な存在を積極的に認める如来蔵思想が現われた。そして、それぞれの思想の信奉者たちは、自分たちこそが釈尊の教えの正しい理解者であること、つまり仏陀の教説の忠実な継承者であることを立証することに鎬を削った。この講義においては、インドの大乗仏教の思想的な潮流が、チベットにおいてどのように受容され、発展し、チベット仏教の特殊な形態が形成されていったかを様々な文献を通して探究してみたい。	
	チベット仏教研究指導Ⅱ 【研究指導】	現在「仏教論理学」と称される学問分野がある。聞き慣れないだろうが、今でいう、認識論・論理学と相似している。非常に理屈っぽい学問で、宗教的テーマを理屈の枠組みで処理しようとする。元来、理屈好きのインドでは、この種の学問が、学派を問わず隆盛を迎えた。そして、それを、実質的にリードしていたのは、インドの仏教僧達であった。彼らの思想を、その始原から探り、他宗派との論点を描き出す作業は、まだ未完成であるが、インド思想とは、一体何なのかを明白にするためには、避けて通れない作業でもある。先ず、彼らの中の、ビッグネーム、世親・陳那・法称等のテキストを中心に据える。それからインド撰述の注釈や反論書等を参照し、更に、昨今、その重要性が指摘されるチベット人の注釈書まで含めた考察を目指す。	
	中国仏教研究指導Ⅰ 【研究指導】	中国におけるインド仏教の受容と展開を研究する。中国では漢代から隋・唐時代にかけて大量の仏典がもたらされ、その翻訳や儒教・道教との交渉を通じて独自の仏教が形成された。また、中国仏教は韓国・日本などの周辺諸国に伝播し、東アジア仏教の思想的・文化的基盤ともなった。この分野を研究する上で必要な文献・歴史・思想・文化に関する方法を、受講生の研究テーマに応じて、文献講読を行いながら研究指導する。	
	中国仏教史研究指導 【研究指導】	中国南北朝、隋・唐代の仏教思想に関して、受講生の研究テーマに沿って、文献講読を行いつつ、博士論文の完成に向けて研究指導を行う。研究指導は、論文指導が中心となるので受講生は定期的レポート提出が必須となる。	
	中国禅宗史研究指導 【研究指導】	語学的読解の次元を超えて中国禅宗文献の思想史的研究を自力で行えるようになるための訓練を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	日本仏教研究指導【研究指導】	日本仏教における聖教類(経典・祖録・注釈書), 並びに日本仏教史に関連する史料の講読を中心に講義を行なう。同時代史料との比較検討を行い, 史料成立時の解釈を考察すると共に, 注釈史的視点からその変容を考察する。	
	日本禅宗史研究指導【研究指導】	この授業は日本の禅宗の歴史に関する講義と研究指導である。特に中世に展開した臨済宗と曹洞宗を課題としており, 日本の歴史と文化に大きく影響を及ぼした禅僧について伝記史料や著作語録などを踏まえて指導していく。ただし, 指導する大学院生の研究対象に応じて随意に個別の指導を行うものである。	
	仏教学研究指導Ⅱ【研究指導】	南北朝から唐代にかけての仏性説・如来蔵説を考えるうえで重要な『仏性論』を検討する。『起信論』との関係に注意しながら梵文『宝性論』と漢訳『仏性論』との関係を比較検討し, あわせてコンピュータによる分析方法についても指導する。	
	宗教学研究指導【研究指導】	宗教学は, 諸種の宗教現象を比較・検討し, 宗教の本質を客観的・実証的に探究することをめざす。その際に, 個々の宗教現象は, それぞれ歴史的な変遷の課程を経て展開してきたといえる。したがって宗教現象は, こうした歴史的背景を通して理解する必要がある。その意味で宗教学と宗教史学は密接にかかわっている。本講義では, 宗教史学の観点から日本宗教史に関する従来の研究諸成果を取り上げ, その特徴と課題を追求する。	
	宗教人類学研究指導【研究指導】	この授業では, 文化人類学ならびに隣接学問領域(宗教学、社会学など)から, 宗教現象を理解する際の、手法や視点・理論などを学ぶ。講読する関連書籍や論文は、受講生のテーマを考慮しながら選ぶ。また調査研究や論文執筆などについての個人指導を行う。	

設置の趣旨等を記載した書類 目次

①設置の趣旨及び必要性	1
②修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か	2
③研究科、専攻等の名称及び学位の名称	2
④教育課程の編成の考え方及び特色	2
⑤教員組織の編成の考え方及び特色	4
⑥教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	5
⑦施設・設備等の整備計画	8
⑧基礎となる学部・修士課程との関係	9
⑨入学者選抜の概要	10
⑩取得可能な資格	10
⑪2以上の校地において教育研究を行う場合	10
⑫管理運営	11
⑬自己点検・評価	12
⑭情報の公表	15
⑮教育内容等の改善のための組織的な研修等	18

①設置の趣旨及び必要性

昭和 27 年度に開設された人文科学研究科仏教学専攻（以下「本専攻」という）は、昭和 32 年度より博士後期課程を増設し、今日に至るまで数多くの優秀な人材を輩出してきた。本専攻においては、平成 3 年度に学位名称が「博士（文学）」から「博士（仏教学）」に変更されたが、それ以前においては 20 名、それ以降においては 49 名、計 69 名に対して博士号が授与されてきた。これは駒澤大学大学院の一専攻の実績としては特筆すべきものである。

人文科学研究科は、仏教学部に基づく仏教学専攻と文学部に基づく国文学専攻、英米文学専攻、地理学専攻、歴史学専攻、社会学専攻、心理学専攻によって構成されているが、実質的にはそれぞれの学部組織に応じて独立した形で運営されてきた。

また近年の大学のみならず大学院を取り巻く環境の変化は著しく、本専攻においてもそれに対応すべく、抜本的な改革が喫緊の課題になっている。

こうした状況の中、本専攻においては、これまで以上に「仏教学専攻」という独自性を前面に出し、また迅速に改革を進めていくために、新たな組織として人文科学研究科より独立することが慎重に議論されてきた。

加えて、平成 25 年度の大学基準協会による認証評価において、人文科学研究科の複雑な運営体制に関わる厳しい指摘がなされていることから、早急な組織改革の必要性が認められる。

以上のことを踏まえ、本専攻においては、人文科学研究科から独立し、仏教学研究科を設置すべきであるとの結論に至った。

なお、授与する学位、教員組織やカリキュラムなどについては、原則として現在の人文科学研究科仏教学専攻の内容を踏襲する予定である。

○教育上の目的及び養成する人材像

仏教学専攻は、仏教学における精深かつ高度で専門的な知識を有し、文化の進展と人類の福祉に寄与する人材を養成する。

○学位授与の方針（ディプロマポリシー）

【修士課程】

修士課程の学位については、仏教学専攻にて設置された禅学・仏教学・宗教学に関する講義科目や演習科目を通して専門知識を修得し、学術的に有意義な研究テーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究能力を錬磨し、当該テーマに関する先行研究を踏まえ、最終的に所定の年限で修士論文を作成した者に対して授与する。その認定は業績審査委員会の報告を受けて、人文科学研究科仏教学専攻委員会の審議によってなされる。

【博士後期課程】

博士後期課程（課程博士）の学位については、修士課程での研究成果をもとに、さらに専門的な知識と教養を修得し、より高度な研究水準の博士論文を所定の年限で作成した者に授与する。その認定は業績審査委員会の報告を受けて、人文科学研究科仏教学専攻委員会の審議を経てなされる。いわゆる論文博士もこれに準ずるものである。

②修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か

本届出は、修士課程および博士後期課程までの構想である。原則として、現在の人文科学研究科仏教学専攻修士課程、及び博士後期課程の内容を踏襲する予定である。

③研究科、専攻等の名称及び学位の名称

研究科、専攻の名称を、仏教学研究科 仏教学専攻とする。

○当該名称の理由

本研究科は、既存の仏教学部を基礎として、より広範且つより高度な専門性を有する研究を遂行することを目的とすることより、学部と同様な名称を用い、仏教学研究科仏教学専攻とする。

○当該学位名称とする理由

学位の名称も基礎となる仏教学部で用いている名称、学士（仏教学）に合わせて、修士（仏教学）並びに博士（仏教学）とする。

④教育課程の編成の考え方及び特色

○教育課程の編成・実施方針

仏教学専攻では仏教に関わる広範な分野を扱うことから、幅広い教育課程を編成している。コース制は導入していないが、インド哲学・仏教学・禅学・宗教学などに分かれ、時代や地域に応じた思想・文化・歴史の研究を行なうことができるよう教員を配置している。修士課程においては、分野に応じた研究科担当教員による講義と演習の授業がなされ、また指導教員による個人指導も行なっている。

博士後期課程においても同様であるが、研究能力の一層の向上と課程博士の学位論文作成・提出に向けて、指導教員による緻密な指導がなされる。また修士課程・博士後期課程の院生を中心に大学院仏教学研究会が組織され、定例研究発表の場が設けられている。とくに博士後期課程の院生には駒澤大学仏教学会での研究発表の機会も与えられる。

修士課程修了に必要な最低単位数は 30 単位以上、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格することが求められる。博士後期課程修了に必要な最低単位数は 12 単位以上、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格することが求められる。

以下が修士課程および博士後期課程の開講科目である。

【修士課程】

・講義科目（選択科目）

宗学特講Ⅰ【講義】	(1・2年次：4単位)
宗学特講Ⅱ【講義】	(1・2年次：4単位)
宗学特講Ⅲ【講義】	(1・2年次：4単位)
宗教学特講【講義】	(1・2年次：4単位)

禅学特講Ⅰ【講義】	(1・2年次：4単位)
禅学特講Ⅱ【講義】	(1・2年次：4単位)
インド仏教特講Ⅲ【講義】	(1・2年次：4単位)
インド哲学特講【講義】	(1・2年次：4単位)
チベット仏教特講Ⅰ【講義】	(1・2年次：4単位)
チベット仏教特講Ⅱ【講義】	(1・2年次：4単位)
中国仏教特講Ⅰ【講義】	(1・2年次：4単位)
中国仏教特講Ⅲ【講義】	(1・2年次：4単位)
中国禅宗史特講Ⅰ【講義】	(1・2年次：4単位)
中国禅宗史特講Ⅱ【講義】	(1・2年次：4単位)
日本仏教特講Ⅱ【講義】	(1・2年次：4単位)
日本禅宗史特講Ⅰ【講義】	(1・2年次：4単位)
仏教学特講Ⅱ【講義】	(1・2年次：4単位)
仏教学特講Ⅲ【講義】	(1・2年次：4単位)
仏教美術史特講【講義】	(1・2年次：4単位)
宗教人類学特講【講義】	(1・2年次：4単位)
・演習科目（選択必修科目）	
宗学特講Ⅰ【演習】	(1・2年次：4単位)
宗学特講Ⅱ【演習】	(1・2年次：4単位)
宗学特講Ⅲ【演習】	(1・2年次：4単位)
宗教学特講【演習】	(1・2年次：4単位)
禅学特講Ⅰ【演習】	(1・2年次：4単位)
禅学特講Ⅱ【演習】	(1・2年次：4単位)
インド仏教特講Ⅰ【演習】	(1・2年次：4単位)
インド仏教特講Ⅲ【演習】	(1・2年次：4単位)
インド哲学特講【演習】	(1・2年次：4単位)
チベット仏教特講Ⅰ【演習】	(1・2年次：4単位)
チベット仏教特講Ⅱ【演習】	(1・2年次：4単位)
中国仏教特講Ⅰ【演習】	(1・2年次：4単位)
中国仏教特講Ⅲ【演習】	(1・2年次：4単位)
中国禅宗史特講Ⅰ【演習】	(1・2年次：4単位)
中国禅宗史特講Ⅱ【演習】	(1・2年次：4単位)
日本仏教特講Ⅱ【演習】	(1・2年次：4単位)
日本禅宗史特講Ⅰ【演習】	(1・2年次：4単位)
仏教学特講Ⅱ【演習】	(1・2年次：4単位)
仏教学特講Ⅲ【演習】	(1・2年次：4単位)
仏教美術史特講【演習】	(1・2年次：4単位)
宗教人類学特講【演習】	(1・2年次：4単位)

【博士後期課程】

・講義科目（選択必修科目）

宗学特殊研究Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
宗学特殊研究Ⅱ	(1・2・3年次：4単位)
宗学特殊研究Ⅲ	(1・2・3年次：4単位)
禅学特殊研究Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
インド哲学特殊研究	(1・2・3年次：4単位)
チベット仏教特殊研究Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
チベット仏教特殊研究Ⅱ	(1・2・3年次：4単位)
中国仏教特殊研究Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
中国仏教史特殊研究	(1・2・3年次：4単位)
中国禅宗史特殊研究	(1・2・3年次：4単位)
日本仏教特殊研究	(1・2・3年次：4単位)
日本禅宗史特殊研究	(1・2・3年次：4単位)
仏教学特殊研究Ⅱ	(1・2・3年次：4単位)
宗教学特殊研究	(1・2・3年次：4単位)
宗教人類学特殊研究	(1・2・3年次：4単位)

・研究指導科目（選択必修科目）

宗学研究指導Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
宗学研究指導Ⅱ	(1・2・3年次：4単位)
宗学研究指導Ⅲ	(1・2・3年次：4単位)
禅学研究指導Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
インド哲学研究指導	(1・2・3年次：4単位)
チベット仏教研究指導Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
チベット仏教研究指導Ⅱ	(1・2・3年次：4単位)
中国仏教研究指導Ⅰ	(1・2・3年次：4単位)
中国仏教史研究指導	(1・2・3年次：4単位)
中国禅宗史研究指導	(1・2・3年次：4単位)
日本仏教研究指導	(1・2・3年次：4単位)
日本禅宗史研究指導	(1・2・3年次：4単位)
仏教学研究指導Ⅱ	(1・2・3年次：4単位)
宗教学研究指導	(1・2・3年次：4単位)
宗教人類学研究指導	(1・2・3年次：4単位)

⑤教員組織の編成の考え方及び特色

○教員の配置について

本研究科は、禅学・仏教学・宗教学・インド哲学並びに文学など、仏教と仏教に隣接する様々な分野をも加えた広範な研究領域を視野に入れ、時代や地域に応じた思想・文化・歴史などの研究を精緻に遂行できるように教員を配置している。具体的には、仏教発祥の地であ

るインド、そして仏教が伝播していった主な地域、チベット、中央アジア、中国、朝鮮、日本、そしてスリランカ、東南アジアの諸地域（タイなど）の仏教を、通史的それも偏りがなく扱うことができるように教員を配置している。

○教員組織において中心となる研究分野と研究体制

仏教学研究科の母体となる仏教学部は禅学科と仏教学科よりなり、24名の専任教員が、時代や地域に応じた仏教に関する思想・文化・歴史などをそれぞれ自らの研究分野としており、どの時代、そして仏教が伝播したほとんどの地域の仏教の研究に対しても対応できるように、研究分野の観点からも、さらには教員の年齢構成の観点からも、偏向のない教員組織を構築している。仏教学部は、教員の研究室と同じフロアーに充実した独自の図書室を持ち、様々な形態の授業或は研究会にも対応できる静謐な環境の複数の演習室をも有している。また、学内には「駒澤大学仏教学会」という独自の学会組織を有し、年に二回開催される学会では専任教員や大学院生などによる有意義な発表がなされている。

⑥教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

○教育方法について

修士課程並びに博士後期課程においては、研究の専門性に差はあるものの、基本的には専門的な知識と教養を修得し、より高度な研究水準の修士論文並びに博士論文を作成できるように、講義を少人数とし、演習においては指導教員による個人的な指導教育を施す。

○履修指導について

【修士課程】

科目の履修にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連すると思われるすべての科目の履修を促す。演習科目に関しては、指導教員以外の演習科目も10単位まで履修することが認められており、また他専攻の講義科目についても4単位にかぎる履修することができる。さらには交流協定校の授業科目も履修することができる。他系統学部の出身者には、指導教員が必要と認めた場合、基礎となる学部すなわち仏教学部の開講基礎科目の特別履修が課される場合がある。（資料1：履修モデル（修士課程））

【博士後期課程】

毎年次において、指導教員の講義を履修することおよび研究指導を受けることが義務付けられている。（資料2：履修モデル（博士後期課程））

○修了要件について

【修士課程】

修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

【博士後期課程】

博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目（指導教授の講義）について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査

及び最終試験に合格すること。

○成績評価について

【修士課程】

成績評価は下表に従って行い、合格した科目については所定の単位を認定する。

【博士後期課程】

研究指導については、P・Fで評価し、Pは合格、Fは不合格とする。

講義・演習科目についての成績評価は下表に従って行い、合格した科目については、所定の単位を認定する。

	成績	評点
合格	S	100～90点
	A	89～80点
	B	79～70点
	C	69～60点
不合格	F	59点以下

○入学から修了まで（論文審査を含む）の教育方法

【修士課程】

禅学・仏教学・宗教学に関する講義科目や演習科目を通して専門知識を習得し、学術的に有意義な研究テーマを設定し、指導教員の指導のもとで研究能力を錬磨し、当該テーマに関する先行研究を踏まえ、所定の年限で優れた修士論文を作成できるように指導する。論文審査は、計3名の審査委員による厳正かつ客観的な審査が実施され、最終的には仏教学研究科委員会で審議される。

【博士後期課程】

指導教員の指導のもとに、修士課程での研究成果を基礎として、研究テーマに関するより専門的な第一次資料を学術的に考究し、より高度な研究水準の博士論文を、所定の年限で作成できるように綿密な指導を行う。

以下、指導スケジュールを表にまとめると次のようになる。

指導スケジュール

修士課程

年次	時期	指導内容
1	4月	入学ガイダンス及び個別指導
		履修科目の受講
	10月	研究計画書の提出
	10月～1月	担当教員による指導（問題意識の深化と研究の展開）
	2月	成績発表
2	4月	履修科目の受講
	6月	修士論文論題の提出

6月～12月	担当教員による指導（研究の詳細化）
1月	修士論文の提出、修士論文報告会
2月	論文審査（口頭試問）、成績発表
3月	学位の授与

博士後期課程

年次	時期	指導内容
1	4月	入学ガイダンスおよび個別指導 履修科目の受講
	5月	研究計画書の提出
	6月～12月	担当教員による指導（問題意識の深化と研究の展開）
	1月	研究報告書の提出
	2月	成績発表
2	4月	履修科目の受講
	5月	研究計画書の提出
	6月～12月	担当教員による指導（研究の詳細化）
	1月	研究報告書の提出
	2月	成績発表
3	4月	履修科目の受講
	5月	研究計画書提出
	6月	博士論文論題提出
	7月～9月	担当教員による指導（研究成果）、（博士論文事前審査）
	10月	博士論文提出
	1月	研究報告書提出、博士論文報告会 最終試験
	2月	成績発表
	3月	学位の授与

○学位論文の審査体制、公表方法、研究の倫理審査体制の具体的内容等について

【学位論文の審査体制】

博士論文は、学位規程に則り主査・副査合わせて3人以上による審査委員会を設置し、厳正かつ客観的な審査が実施される。高度な専門性が問われるものであるため、専門分野に応じては学外の専門家を審査に加えることもある。博士論文ではその評価に際し、何よりも研究の堅実性並びに独自性が重視される。

【公表方法】

また、論文提出前には、およそ一ヶ月間にわたり、事前審査期間を設けている。論文提出後には、主査1名、副査2名以上によって構成される審査（口頭試問）を実施し、各審査員が評価を行う。最終的には仏教学研究科委員会で審議される。

学位論文は、博士の学位が授与された日から3ヶ月以内に、その論文の内容の要旨及び

その審査の結果の要旨をインターネットを利用して公表しなければならない。また、論文は、博士の学位が授与された日から一ヶ月以内にインターネットを利用して公表しなければならない。

【研究の倫理審査体制】

学内には、主に人を対象とする研究について、適正且つ円滑に推進することを目的とし、十分な倫理的配慮を図るために、「人を対象とする研究」に関する倫理委員会が設置されている。従来は、年4回開催されていたが、今年度より年5回開催されることとなった。

⑦施設・設備等の整備計画

○校地、運動場の整備計画

本研究科が主として利用する校地、運動場については、既設の駒澤大学及び駒澤大学大学院との共用であるものの、駒沢キャンパス (50,462.85 m²)、深沢キャンパス (14,052.46 m²) 及び運動場としての玉川キャンパス (51,346.61 m²) が整備されており、特段の支障はない。

○校舎等施設の整備計画

本研究科は旧来の学問分野でいえば文学を主とする大学院であり、大がかりな実験設備や機器類は必要としない。本課程の講義室・演習室・学生研究室など本課程の教育研究にかかわる施設は駒沢キャンパス及び深沢キャンパスに設置する。学生の研究室等は深沢キャンパスに設ける。

講義・演習室

本研究科修士課程での講義科目、演習科目を合計した開講コマ数は41コマ、本研究科博士後期課程での講義科目、研究指導科目を合計した開講コマ数は15コマである。

講義については、主として駒沢キャンパスにおいて各担当教員研究室での実施及び大学院講義・演習室第二研究館2001 (28.95 m²、定員18名)、大学院講義・演習室第二研究館2002 (39.20 m²、定員24名)の2教室で、修士課程・博士後期課程において共用して行う(資料3：駒澤大学駒沢キャンパス平面図(第一研究館、第二研究館))。科目の履修人数により、深沢キャンパスにおいて授業を実施する場合がある(資料4：駒澤大学深沢キャンパス平面図(深沢校舎))。

学生研究室

大学院学生が個別に研究を進める部屋として大学院学生研究室を設ける。学生研究室については、修士課程は入学定員20名、収容定員40名、博士後期課程は入学定員5名、収容定員15名であるため、2室設ける(資料4：駒澤大学深沢キャンパス平面図(深沢校舎))。深沢キャンパス6階仏教学専攻院生研究室-1 (39.60 m²)、同仏教学専攻院生研究室-2 (189.74 m²)をそれに充てる。パーソナルコンピューター計4台、共用プリンター計5台を備え、両室ともLANを設置し、良好なインターネット環境を確保する。

○図書等の資料及び図書館の整備計画

本課程の学生が利用可能な本学における蔵書は総数約124万冊(製本済雑誌、外部委託図

書等を含む)であり、その蔵書の中に約 9,800 タイトルの学術雑誌、ほかに約 19,000 タイトルの電子ジャーナルを収集・整備している。本研究科は、学部が収集している図書、学術雑誌、電子ジャーナルを共用する。特に大学院レベルで必要な哲学・宗教の電子ジャーナルや雑誌については教員の共同利用のために中国学術雑誌前文データベースや EBSCO オンラインデータベース等と契約しているものを、本研究科の学生と共用する。また、本課程の学生に必要な図書や雑誌のうち仏典・古典籍に関して、電子貴重書庫で画像を公開して学生の利用に供する。本課程の教育方針に基づいて、哲学・宗教および仏教原典研究に必要な言語の資料を購入する。収集する資料のジャンルは以下の通りである。最新資料のみならず、歴史的資料の収集も行う。

[宗教学・仏教学関係]

- ・宗教学に関する文献
- ・仏教学に関する文献
- ・伝道に関する文献

[禅学関係]

- ・曹洞宗の宗学に関する文献
- ・禅学一般に関する文献
- ・禅宗史関係の文献

[仏教伝播地域の宗教・哲学・文化関係]

- ・インド、チベット、中国、朝鮮、東アジア、日本などの仏教・仏教史研究に関する文献
- ・哲学・宗教諸派の研究に関する文献
- ・宗教民俗学に関する文献
- ・宗教人類学に関する文献

[仏教原典研究関係]

- ・パーリ語、サンスクリット語、チベット語、中国語の仏教文献

⑧基礎となる学部・修士課程との関係

仏教学研究科にとって基礎となる学部である仏教学部の禅学科並びに仏教学科のカリキュラムは、仏教に関する充実した基礎教育を土台として、ある程度の専門性が要求される卒業論文(必修科目)の作成、さらには修士課程でより専門性の高い研究を志す学生をも視野に入れた、極めて綿密に体系化されたものである。つまり、学部のカリキュラムを十全に消化することによって、修士課程に進むある程度の能力を修得することができる。学生は、3年次と4年次において同一の指導教員の演習に所属し、主に第一次資料を扱う為に必要とされる、語学の訓練をはじめとする様々な訓練が施される。近年においては、学部の優秀な学生にはできるだけ修士課程の授業(講義並びに演習)に受講することを促している。(資料5:既設の学部、修士課程、博士後期課程との関係)

⑨入学者選抜の概要

○入学者受入方針

【修士課程】

修士課程では、禅学・仏教学・宗教学等の領域において基礎的な研究能力を培うのみでなく、さらに熱意をもって専門領域の研究に打ち込み、それぞれの領域における高度に専門的な知識を用いて社会貢献のできる人材を育成することを目的としている。そのため本専攻では、意欲的に研究に取り組む態度、深い思考力と広い視野を備えたものの見方、誠実に自らを律する姿勢などを持った学生を、年齢や国籍などに関係なく積極的に受け入れる。

【博士後期課程】

博士後期課程では、禅学・仏教学・宗教学等の領域において想像力を涵養し、将来にわたって自らを律しながら、自律的に研究を進めることができる人材を育成することを目的としている。そのため本専攻では、創造的研究に耐え得る能力、研究者としての社会的倫理性を高めようとする意欲のみでなく、高い人格性をもって自らを律する姿勢を兼ね備えた学生を積極的に受け入れる。

○選抜方法と募集人数

①一般入学試験（9月・2月実施）

【修士課程】

募集人数：20名

入試科目：専門に関する試験、外国語に関する試験、面接試験

【博士後期課程】※2月のみ実施

募集人数：5名

入試科目：専門に関する試験、外国語に関する試験、面接試験

②外国人留学生入学試験（9月・2月実施）

【修士課程】

募集人数：若干名

入試科目：小論文、英語に関する試験、面接試験

⑩取得可能な資格

【仏教学研究科 仏教学専攻】

・中学・高校教員専修（宗教）

ア 国家資格， イ資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる単位のほか、教職関連科目の履修が必要

⑪2以上の校地において教育研究を行う場合

講義は、主として駒沢キャンパスにおいて各担当教員研究室での実施及び大学院講義・演習室第二研究館 2001 (28.95 m²、定員 18 名)、大学院講義・演習室第二研究館 2002 (39.20 m²、

定員 24 名) の 2 教室で、修士課程・博士後期課程において共用して行う(資料 3 : 駒澤大学駒沢キャンパス平面図(第一研究館平面図、第二研究館))。科目の履修人数により、深沢キャンパスにおいて授業を実施する場合があるが、その場合は、時間割に無理のないよう、担当教員や学生への配慮を行う。

⑫管理運営

本学大学院は駒澤大学学長がこれを統理し、その下に学長を補佐して本研究科を統括する研究科委員長が置かれ、責任者として管理運営にあっている。なお、研究科委員長は本研究科に研究科委員会を設置してその推薦に基づき学長が委嘱するものであり、任期は 2 年である。

また、本学大学院においては、全学的な組織として大学院における教育研究に関する基本的事項を審議する大学院委員会が設置されている(駒澤大学大学院学則第 34 条)。この大学院委員会は、①学長、②各副学長、③各研究科委員長及び研究科長、④各専攻主任、⑤各研究科から選出され、学長の委嘱を受けた各 1 人(ただし、法曹養成研究科(法科大学院)を除く。)、及び⑥教務部長から構成されている。審議事項は、以下の通りとなっている(資料 6 : 大学院委員会規程)。

- ①学位の授与
- ②大学院における教育及び研究の基本方針に関する事項
- ③大学院における教育研究組織の設置、廃止又は変更等の編成に関する事項
- ④大学院の教育内容、教育方法等の検証及び改善に関する事項
- ⑤大学院学則並びに諸規程の制定及び重要な変更に関する事項
- ⑥入学試験に関する基本的事項
- ⑦学位論文の審査に関する基本的事項
- ⑧大学院担当教員の委嘱に関する基本的事項
- ⑨各研究科間の調整に関する事項
- ⑩その他構成員から審議を求められた事項

本研究科においても、他の研究科と同様に、専任教員をもって構成する研究科委員会を設置する(駒澤大学大学院学則第 35 条)。研究科委員会は原則として月 1 回開催し、その主な審議事項は、以下の通りである(資料 7 : 大学院研究科委員会規程)。

- ①学生の入学及び課程の修了
- ②研究科における教育研究の基本方針に関する事項
- ③研究科における教育課程及び組織の編成に関する事項
- ④研究科の教育研究予算計画に関する事項
- ⑤学位論文の審査に関する事項
- ⑥研究科における教育内容、教育方法等の検証及び改善に関する事項
- ⑦担当教員(兼担・兼任を含む)の委嘱に関する事項
- ⑧授業、研究指導及びその担当に関する事項
- ⑨試験及び評価に関する事項
- ⑩各専攻科間の連絡調整に関する事項

- ⑪休学・復学・退学・除籍・転学等学生の身分に関する事項
- ⑫科目等履修生及び研究生の受入れに関する事
- ⑬単位互換等並びに学生の外国への留学及び外国からの留学生の受入れに関する事
- ⑭学生の指導及び賞罰並びに奨学生等の推薦に関する事項
- ⑮研究科委員長及び専攻主任の推薦並びに各種委員の選出に関する事項
- ⑯大学院委員会に提案あるいは付託すべき事項
- ⑰その他構成員から審議を求められた事項

大学院の人事に関しては大学院独自の大学院人事委員会が設置され、大学院の授業及び研究指導を担当する教員の委嘱等について審議を行っている。大学院人事委員会への提案は各研究科委員長であり、当該教員の学歴、教育研究上の業績、並びに社会的活動などに関する資料、及び審査委員会の報告書等を資料として提出することが規程により定められている。構成員は、①学長、②各副学長、③各研究科委員長及び研究科長、④各専攻から選出された委員1人である（資料8：大学院人事委員会規程）。

また、大学院の授業を担当する教員の資格審査・委嘱については大学院担当教員の委嘱に関する規程により、当該研究科におかれた審査委員会（主査1名、副査2名以上）の審議結果に基づき、研究科委員会、並びに大学院人事委員会の議を経て学長が委嘱することになっている（資料9：大学院担当教員の委嘱に関する規程）。

大学院の自己点検・評価に関しては、全学自己点検・評価委員会の下に部門別自己点検・評価運営委員会として大学院自己点検・評価運営委員会が設置されており、各研究科より選任された委員により活動を行っているため、本研究科もここに参画している。

大学院専門の教務事務部門としては教務部教務課教務2係があり、現在5名の専任職員が配属されている。本部門は各研究科の修士課程（博士前期課程）と博士後期課程についての履修、授業、成績等に関する事務一般、履修相談、入試関連業務、及び研究生等についての教務事務を担当している。

現在既に設置されている研究科においては、上記の組織により、カリキュラムや人事等に関して学部とは別の独立した管理運営体制が取られており、本課程設置後においても、今までと同様、この体制の中で運営を図ることになる。

⑬自己点検・評価

本学では、教育・研究水準の向上と教育・研究活動の活性を図ると共に、その社会的使命を果たすために、全学自己点検・評価に関する規程を制定し、大学、大学院及び法科大学院の教育・研究活動とその管理運営等の状況について自己点検・評価を実施している。

実施体制として、教育・研究担当の副学長を委員長とした全学自己点検・評価委員会の下に、学部等、大学院、附属研究所、大学事務の4つの部門別自己点検・評価運営委員会を置き、それぞれの委員会に各個別機関自己点検・評価作業部会が設置されている。従って、本研究科においても大学院自己点検・評価運営委員会の下に、自己点検・評価作業部会が設置されている。

自己点検・評価は毎年度実施しており、実施方法については、各個別機関自己点検・評価作業部会では「自己点検・評価チェックシート」及び「自己点検・評価結果報告書」による自己

点検・評価を実施し、実効性・有効性のある自己点検・評価活動を通じ、各組織の改善・向上を図っている。部門別自己点検・評価運営委員会では、各個別機関作業部会で実施した「自己点検・評価チェックシート」のピアレビューを実施することにより、個別機関自己点検・評価作業部会の自己点検・評価活動の実質化に向けたサポートを行っている。

全学自己点検・評価委員会においては、各個別機関作業部会が実施し、部門別自己点検・評価運営委員会による確認を受けた「自己点検・評価結果報告書」及び「自己点検・評価チェックシート」を、全学的観点による総合的かつ体系的な検証を実施している。検証結果より、全学的に共有すべき課題や問題点の抽出、また大学としての優れた取組みを確認し、全学自己点検・評価委員会委員長総括を含めた「全学自己点検・評価結果報告書」を作成している。

なお、「全学自己点検・評価結果報告書」は、全学自己点検・評価委員長から学長に報告し、学長は自己点検・評価結果の内容を、本学の内部質保証を推進する「駒澤大学教学運営会議」に報告し、教育・研究諸活動の改善・改革に資する取組みへと繋げている。

また、自己点検・評価の客観性及び公平性を高め、教育・研究活動の一層の改善や充実に資するために、駒澤大学自己点検・評価に関する外部評価委員会規程を制定し、外部評価を実施する機関として外部評価委員会を設置している。

外部評価委員会は、学長が委嘱する学外有識者をもって構成されており、本学が実施する自己点検・評価の結果についての検証及び評価を行い、評価結果及び改善を求める提言事項を「外部評価報告書」としてまとめ、学長に提出している。学長は「外部評価報告書」を全学自己点検・評価委員会に報告することで、自己点検・評価に反映させている。

本学は、平成25年度に大学基準協会による認証評価を受審し、「適合認定」を受けた。認証評価受審にあたっては、平成24年度に大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目（具体的な大学基準及び点検・評価項目は以下の通り）に則した自己点検・評価を実施した。認証評価では、8つの「努力課題」が付されたが、学長のリーダーシップのもと、大学全体で努力課題の抜本的な改善・改革に取り組み、平成29年度には努力課題への対応状況及び改善状況をまとめた「改善報告書」を大学基準協会へ提出した。「改善報告書検討結果」では、若干の意見は付されたものの、意欲的に改善に取り組んでいることが評価され、今後の改善経過について再度報告を求められる事項はなかった。

なお、平成25年度に係る全学自己点検・評価報告書「脚下照顧」及び認証評価結果、平成29年度に大学基準協会に提出した「改善報告書」及び「改善報告書検討結果」については、広く社会に公表することを目的に、大学ホームページにおいて公表を行っている。

【全学自己点検・評価 評価項目一覧】

1 理念・目的

- (1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
- (2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生等）に周知され、社会に公表されているか。
- (3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

2 教育研究組織

- (1) 大学の学部・学科・研究科・専攻及び附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

3 教員・教員組織

(1) 大学として求める教員像及び教員組織の編成方針を明確に定めているか。

(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

4 教育内容・方法・成果

①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

(3) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員及び学生等）に周知され、社会に公表されているか。

(4) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

②教育課程・教育内容

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

③教育方法

(1) 教育方法及び学習指導は適切か。

(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結び付けているか。

④成果

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

5 学生の受け入れ

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

6 学生支援

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を

明確に定めているか。

- (2) 学生の修学支援は適切に行われているか。
- (3) 学生の生活支援は適切に行われているか。
- (4) 学生の進路支援は適切に行われているか。

7 教育研究等環境

- (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 十分な校地・校舎及び施設・設備を整備しているか。
- (3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
- (4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
- (5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

8 社会連携・社会貢献

- (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。
- (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

9 管理運営・財務

①管理運営

- (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。
- (2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
- (3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。
- (4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

②財務

- (1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。
- (2) 予算編成及び予算執行は適切に行っているか。

10 内部質保証

- (1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。
- (2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。
- (3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

⑭情報の公表

本学では、教育研究活動に関する情報について、広く社会に公表している。なお、各項目を掲載する具体的な URL は以下の通りである。

①大学の教育研究上の目的に関すること

【大学院】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/graduate/>

(駒澤大学サイトホーム>学部・大学院 >大学院紹介)

【学部】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/faculty/>

(駒澤大学サイトホーム>学部・大学院 >学部学科紹介)

②教育研究上の基本組織に関すること

【大学院】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/graduate/>

(駒澤大学サイトホーム>学部・大学院 >大学院紹介)

【学部】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/faculty/>

(駒澤大学サイトホーム>学部・大学院 >学部学科紹介)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

【教員組織、学位及び業績】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/teachers/>

(駒澤大学サイトホーム>学部・大学院 >教員紹介)

【教員の数】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/teachers/>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>情報公開>教職員数)

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

【入学者に関する受入方針】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>情報公開>3つのポリシー)

【卒業・入学者数】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/number-of-graduates-enrollment.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>情報公開>卒業生数・入学者数)

【収容定員】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/overview/regulations.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>大学の概要>学則)

【在学する学生の数】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/students.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>情報公開>学生数)

【進学者数及び就職者数等】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/career/finding-employment-data.html>

(駒澤大学サイトホーム>キャリアセンター>就職データ)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

【大学院】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/graduate/syllabus.html>

(駒澤大学サイトホーム>学部・大学院>大学院紹介>大学院要覧)

【学部】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/registration.html>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>履修・授業・試験・成績>学部生>履修>シラバス (講義内容))

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/overview/regulations.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>大学の概要>学則)

⑦校地・校舎等の施設及び整備その他の学生の教育研究環境に関すること

<https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/>

(駒澤大学サイトホーム>施設・図書館等)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/access/>

(駒澤大学サイトホーム>交通アクセス)

⑧授業料、入学金その他大学が徴収する費用に関すること

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/school-expenses/>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>学費等)

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

【修学】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>履修・授業・試験・成績)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/student-life-support/schedule.html>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>学生生活サポート>学内行事予定)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/scholarship/>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>奨学金)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/international/>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>留学・国際交流)

【進路選択】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/career/>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>キャリアセンター)

【心身の健康】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/health-center/>

(駒澤大学サイトホーム>保健管理センター)

【学生相談室】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/student-counselors-office/>

(駒澤大学サイトホーム>学生生活・就職>学生相談室)

⑩その他

【教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>情報公開>3つのポリシー)

【学則等各種規程】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/overview/regulations.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>大学の概要>学則)

【設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/authorization-application.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>情報公開>認可申請書関係)

【自己点検・評価報告書】

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/self-inspection.html>

(駒澤大学サイトホーム>大学概要>情報公開>脚下照顧(自己点検・評価報告書))

【認証評価の結果】

<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/kokuchi/070327kijunnintei>

(駒澤大学サイトホーム>大学からのお知らせ>2013年度>公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価結果)

⑮教育内容等の改善のための組織的な研修等

本研究科では駒澤大学全体で行われている教員の資質向上のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)推進委員会の活動の研究科独自の展開とともに、研究科の特性を活かした取り組みを実施している。

本学の採用している在外研修制度を積極的に活用して、教員を海外の大学・研究機関などに派遣して、最新の研究内容の理解を深めるとともに、帰国後は、研究科内においてその成果の共有を図っている。

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

資料1：履修モデル（修士課程）	1
資料2：履修モデル（博士後期課程）	2
資料3：駒澤大学駒沢キャンパス平面図（第一研究館平面図、第二研究館）	4
資料4：駒澤大学深沢キャンパス平面図（深沢校舎）	7
資料5：既設の学部、修士課程、博士後期課程との関係	10
資料6：大学院委員会規程	13
資料7：大学院研究科委員会規程	16
資料8：大学院人事委員会規程	19
資料9：大学院担当教員の委嘱に関する規程	21

資料 1 : 履修モデル (修士課程)

履修モデル 1

想定される進路「国内外の大学・研究所等の研究機関」(修士課程)

	講義科目	演習科目	単位数
1 年次	中国仏教特講 III 仏教学特講 II 禅学特講 I	中国仏教特講 III	16 単位
2 年次	中国仏教特講 I 仏教学特講 III 禅学特講 II	中国仏教特講 III	16 単位
合 計	6 科目	2 科目	8 科目 / 32 単位

資料 2 : 履修モデル (博士後期課程)

履修モデル 2

想定される進路「寺院などの住職に立場をおき、仏教の実践的な活動に従事」(博士後期課程)

	講義科目	研究指導科目	単位数
1 年次	宗学特殊研究 III	宗学研究指導 III	4 単位
2 年次	宗学特殊研究 III 宗学特殊研究 II	宗学研究指導 III	8 単位
3 年次	宗学特殊研究 III 宗学特殊研究 I	宗学研究指導 III	8 単位
合 計	5 科目	3 科目	8 科目 / 20 単位

履修モデル 3

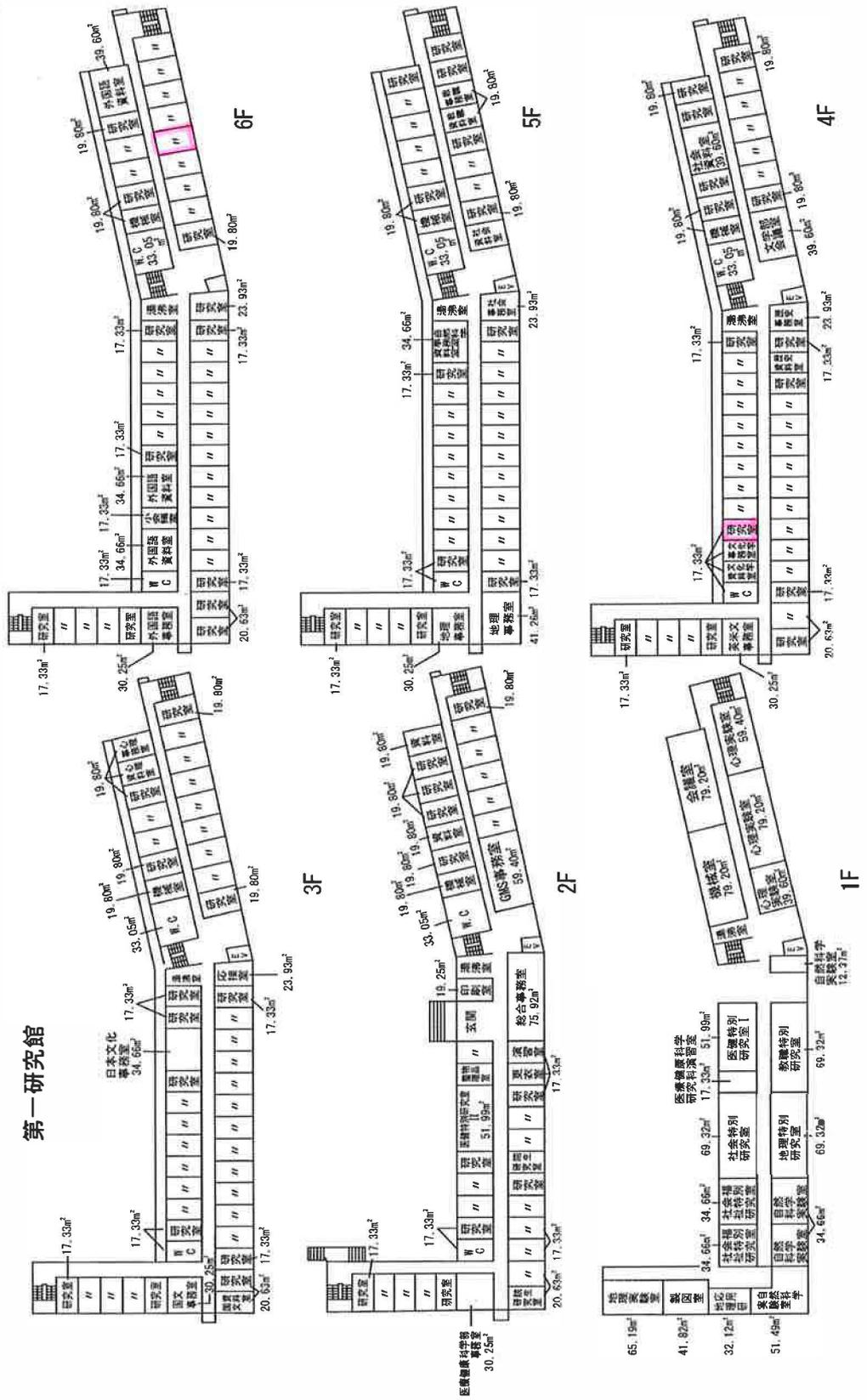
想定される進路「教員などの専門的な指導者」(博士後期課程)

	講義科目	研究指導科目	単位数
1年次	チベット仏教特殊研究 I	チベット仏教研究指導 I	4 単位
2年次	チベット仏教特殊研究 I インド哲学特殊研究	チベット仏教研究指導 I	8 単位
3年次	チベット仏教特殊研究 I チベット仏教特殊研究 II	チベット仏教研究指導 I	8 単位
合計	5 科目	3 科目	8 科目 / 20 単位

資料 3 : 駒澤大学駒沢キャンパス平面図 (第一研究館、第二研究館)

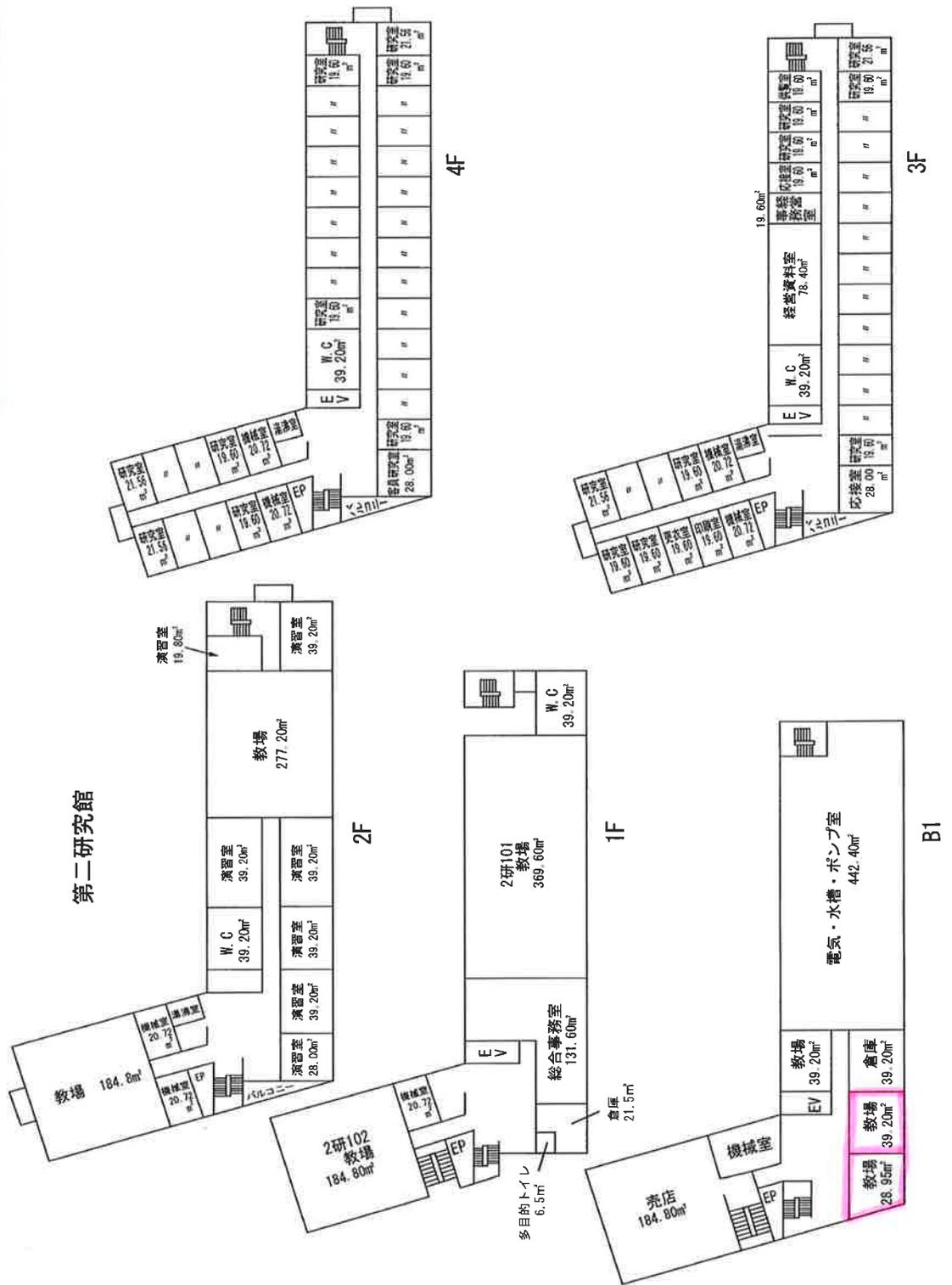
駒澤大学校舎等平面図

■ 本申請に係る研究科が使用する教室等



駒澤大学校舎等平面図

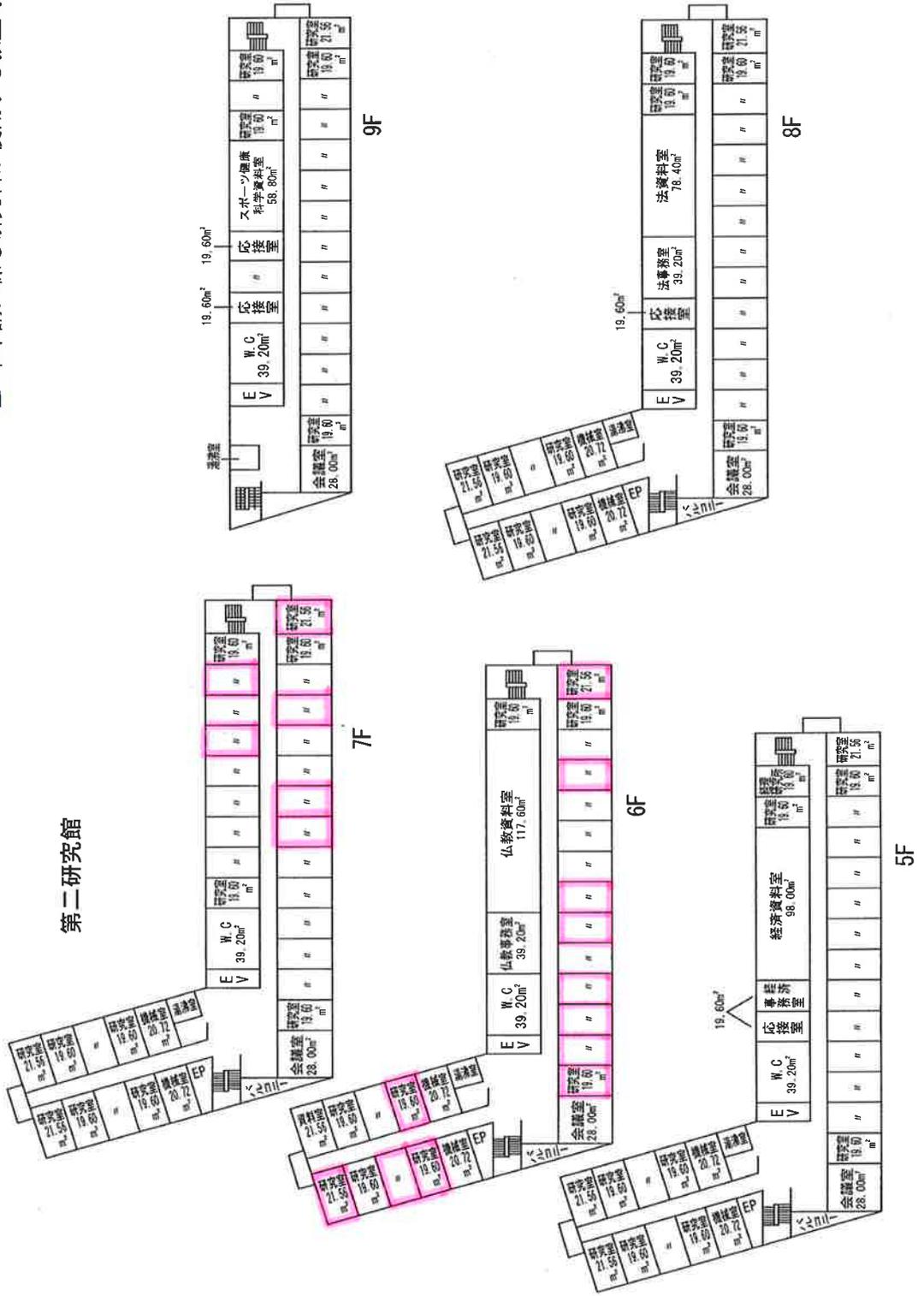
□ 本申請に係る研究科が使用する教室等



駒澤大学校舎等平面図

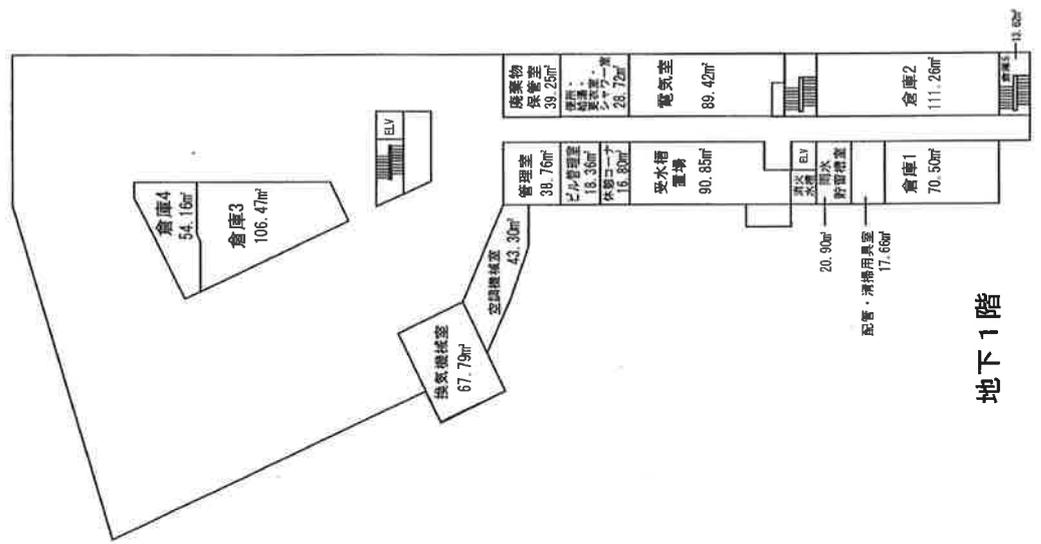
第二研究館

■ 本申請に係る研究科が使用する教室等



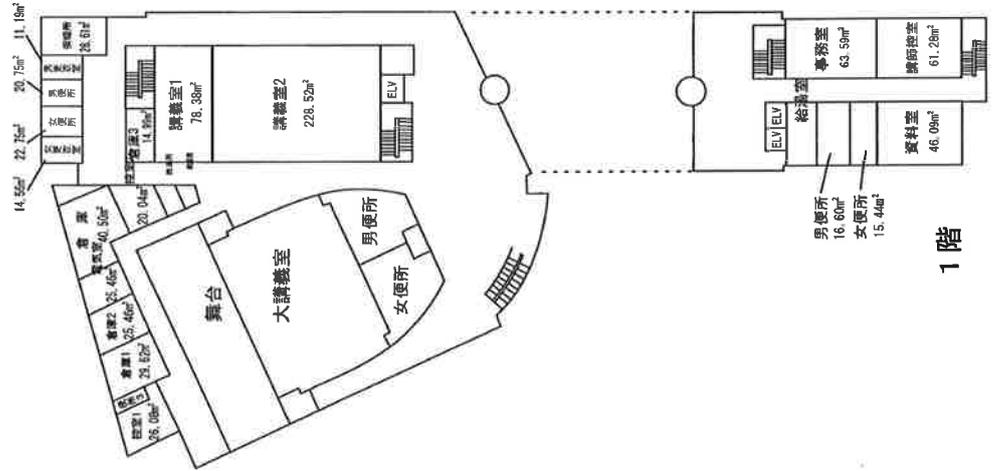
資料 4：駒澤大学深沢キャンパス平面図（深沢校舎）

深沢校舎地下 1 階・1 階平面図



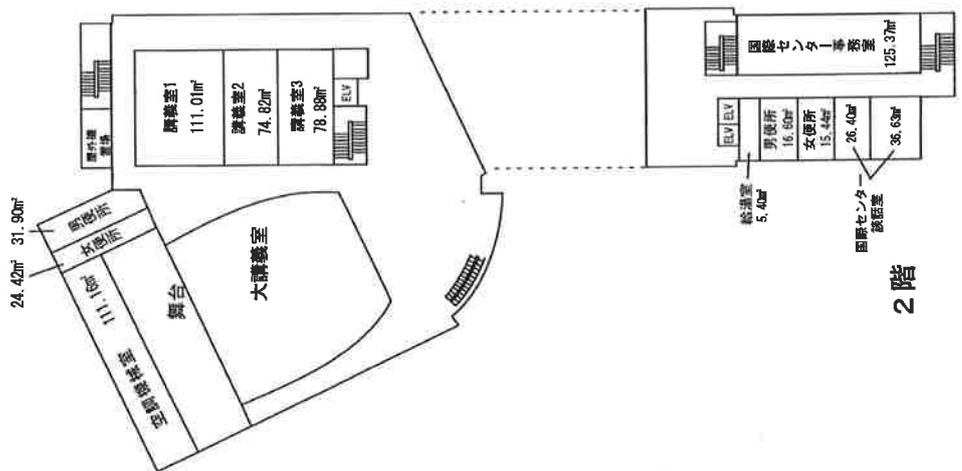
地下 1 階

本申請に係る研究科が使用する教室等（該当なし）



1 階

深沢校舎 2階・3階平面図



2階

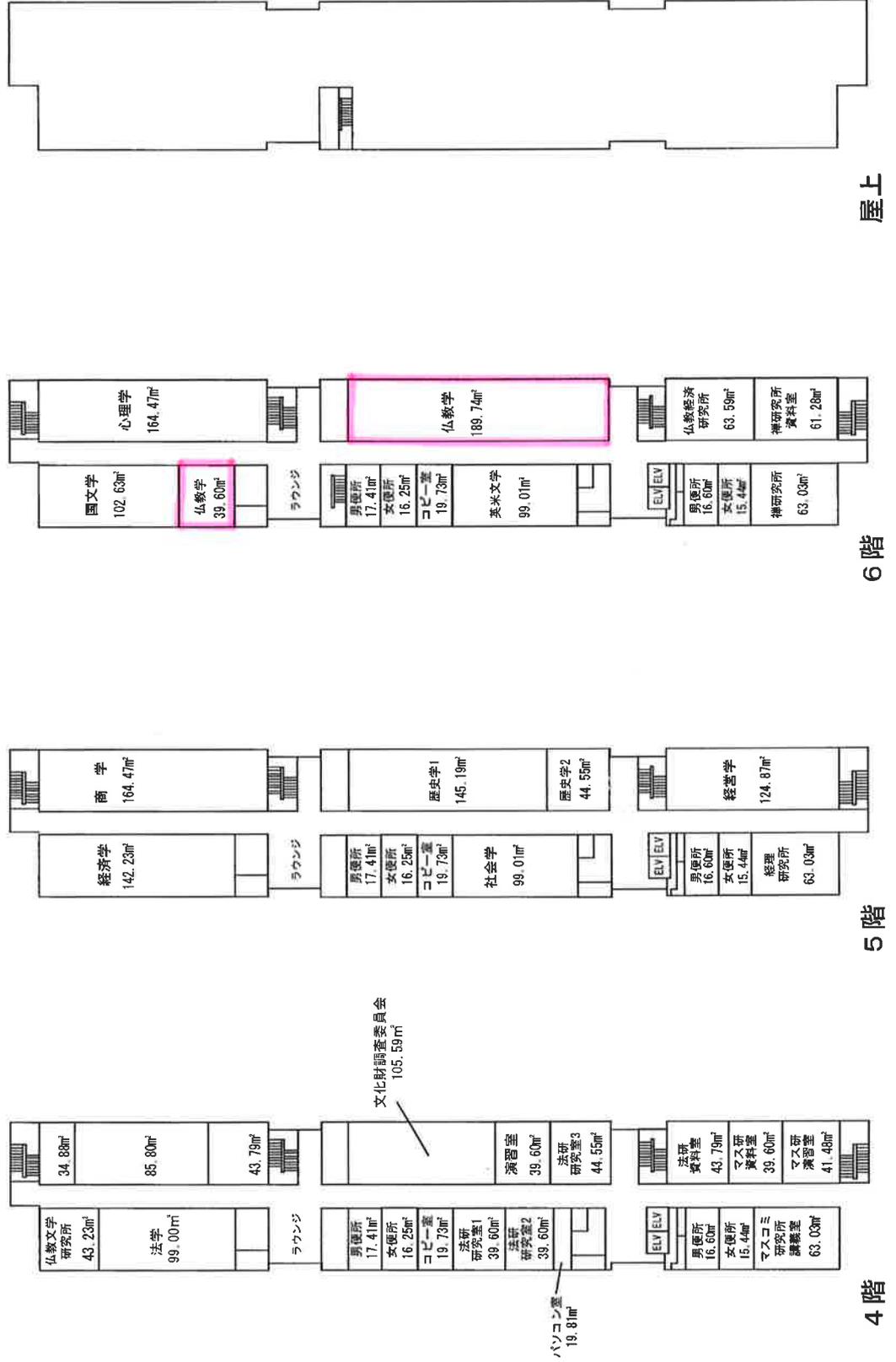
■ 本申請に係る研究科が使用する教室等



3階

深沢校舎 4階・5階・6階・屋上平面図

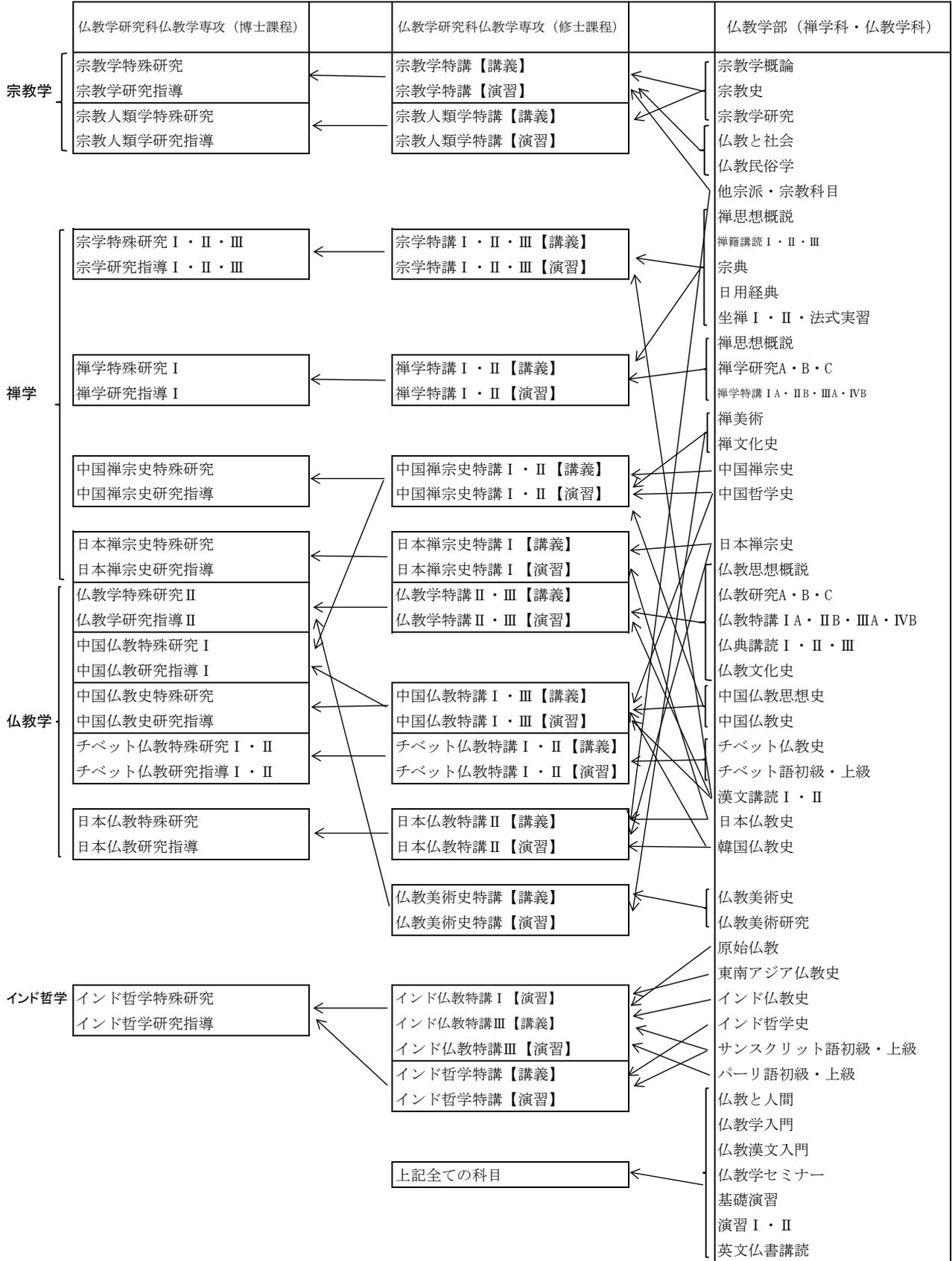
■ 本申請に係る研究科が使用する教室等



資料5：既設の学部、修士課程、博士後期課程との関係

仏教学研究科仏教学専攻（博士課程）		仏教学研究科仏教学専攻（修士課程）		仏教学部（禅学科・仏教学科）
宗学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 宗学研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	←	宗学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ【講義】【演習】	←	禅籍講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 宗典 日用經典 坐禅Ⅰ・Ⅱ 法式実習 坐禅など実習系科目
宗教学特殊研究 宗教学研究指導	←	宗教学特講【講義】【演習】	←	宗教学概論 宗教史 宗教学研究 仏教と社会
宗教人類学特殊研究 宗教人類学研究指導	←	宗教人類学特講【講義】【演習】	←	他宗派・宗教科目
禅学特殊研究Ⅰ 禅学研究指導Ⅰ	←	禅学特講Ⅰ・Ⅱ【講義】【演習】	←	禅思想概説 禅学研究A・B・C 禅学特講ⅠA・ⅡB・ⅢA・ⅣB
インド哲学特殊研究 インド哲学研究指導	←	インド仏教特講Ⅰ【演習】 インド仏教特講Ⅲ【講義】【演習】 インド哲学特講【講義】【演習】	←	インド仏教史 インド哲学史 サンスクリット語初級・上級 パーリ語初級・上級
チベット仏教特殊研究Ⅰ・Ⅱ チベット仏教研究指導Ⅰ・Ⅱ	←	チベット仏教特講Ⅰ・Ⅱ【講義】【演習】	←	チベット仏教史 チベット語初級・上級
中国仏教特殊研究Ⅰ 中国仏教研究指導Ⅰ	←	中国仏教特講Ⅰ・Ⅲ【講義】【演習】	←	中国仏教史 中国仏教思想史 東南アジア仏教史
中国仏教史特殊研究 中国仏教史研究指導	←	中国禅宗史特講Ⅰ・Ⅱ【講義】【演習】	←	韓国仏教史 中国禅宗史 中国哲学史 禅文化史 漢文講読Ⅰ・Ⅱ
中国禅宗史特殊研究 中国禅宗史研究指導	←	日本仏教特講Ⅱ【講義】【演習】	←	日本仏教史 仏教民俗学
日本仏教特殊研究 日本仏教研究指導	←	日本禅宗史特講Ⅰ【講義】【演習】	←	日本禅宗史 仏教思想概説 仏教文献学
日本禅宗史特殊研究 日本禅宗史研究指導	←	仏教学特講Ⅱ・Ⅲ【講義】【演習】	←	仏教文化史 仏教研究A・B・C 仏教特講ⅠA・ⅡB・ⅢA・ⅣB 仏典講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
仏教学特殊研究Ⅱ 仏教学研究指導Ⅱ	←	仏教美術史特講【講義】【演習】	←	仏教美術史 仏教美術研究 禅美術 演習Ⅰ・Ⅱ 英文仏書講読
		上記全ての科目		

仏教学部・仏教学研究科 科目対応関係 (パターン2: 従来型・系統を示しほぼ全ての科目のつながりを示す)



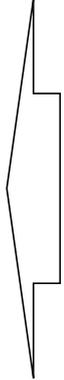
パターン3:系統図型・系統別に全ての科目についてゆるやかに相関を示す
仏教学研究科仏教学専攻(博士課程)

<p>宗教学</p> <p>宗教学特攻研究 宗教学研究指導 宗教学特攻研究 宗教学特攻研究指導</p>	<p>禅学</p> <p>宗学特攻研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 宗学研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 禅学特攻研究Ⅰ 禅学研究指導Ⅰ 日本禅宗史特攻研究 中国禅宗史特攻研究 中国禅宗史研究指導</p>	<p>仏教学</p> <p>中国仏教特攻研究Ⅰ 中国仏教研究指導Ⅰ 中国仏教史特攻研究 中国仏教史研究指導 チベットの仏教特攻研究Ⅰ・Ⅱ チベットの仏教研究指導Ⅰ・Ⅱ 日本仏教特攻研究 日本仏教研究指導 仏教学特攻研究Ⅱ 仏教学研究指導Ⅱ</p>	<p>インド哲学</p> <p>インド哲学特攻研究 インド哲学研究指導</p>
--	---	--	--



仏教学研究科仏教学専攻(修士課程)

<p>宗教学</p> <p>宗教学特講【講義】【演習】 宗教学特講【講義】【演習】 宗教学特講【講義】【演習】</p>	<p>禅学</p> <p>宗学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ【講義】【演習】 中国禅宗史特講Ⅰ・Ⅱ【講義】【演習】 日本禅宗史特講Ⅰ【講義】【演習】 禅学特講Ⅰ・Ⅱ【講義】【演習】</p>	<p>仏教学</p> <p>中国仏教特講Ⅰ・Ⅱ【講義】【演習】 チベットの仏教特講Ⅰ・Ⅱ【講義】【演習】 日本仏教特講Ⅱ【講義】【演習】 仏教美術史特講【講義】【演習】 仏教学特講Ⅱ・Ⅲ【講義】【演習】 インド仏教特講Ⅰ【演習】 インド仏教特講Ⅲ【講義】【演習】</p>	<p>インド哲学</p> <p>インド哲学特講【講義】【演習】</p>
--	---	--	--



仏教学部(禅学科・仏教学科)

<p>宗教学</p> <p>概論・概説 浄土学概論 真言学概論 日蓮学概論 神道概説 新宗教概説 キリスト教概論 哲学概論 心理学概論 宗教学概論Ⅰ・Ⅱ 宗教学概説</p>	<p>宗教学</p> <p>研究・講義 宗教学研究 宗教学教育 青少年問題研究 演習Ⅰ・Ⅱ 卒業論文</p>	<p>歴史</p> <p>中国禅宗史 日本禅宗史 禅美術 禅文化史</p>	<p>文獻講読</p> <p>神宗講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 宗典 日用経典</p>	<p>実習</p> <p>坐禅Ⅰ・Ⅱ 法式実習</p>	<p>歴史</p> <p>インド仏教史 中国仏教史 中国仏教思想史 中国哲学史 チベットの仏教史 韓国仏教史 東南アジア仏教史 日本仏教史 仏教文化史 仏教美術史 原始仏教</p>	<p>文獻講読</p> <p>漢文講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 仏典講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 英訳文獻学 漢詩作法 書道</p>	<p>研究・特殊講義</p> <p>仏教研究A・B・C 仏教特講ⅠA・ⅡB・ⅢA・ⅣB 仏教民俗学 仏教美術研究 仏教と社会 演習Ⅰ・Ⅱ 卒業論文</p>	<p>インド哲学</p> <p>インド哲学史 演習Ⅰ・Ⅱ 卒業論文</p>	<p>言語</p> <p>カンヌクワリクワト語初級・上級 バーリ語初級・上級 チベットの語初級・上級</p>
<p>基礎科目</p> <p>仏教学入門 仏教漢文入門 仏教学セミナー 基礎演習</p>									

資料6：大学院委員会規程

○大学院委員会規程

昭和55年4月1日
制定

改正 昭和61年4月1日
平成16年4月1日
平成22年4月1日
平成25年4月1日
平成27年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、駒澤大学大学院学則第34条に基づき、本大学院に置く大学院委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 各副学長
- (3) 各研究科委員長及び研究科長
- (4) 各専攻主任
- (5) 各研究科から選出され、学長の委嘱を受けた各1人。ただし、法曹養成研究科（法科大学院）を除く。
- (6) 教務部長

2 前項のほか、審議の必要により事務部門の部課長等の出席を求め意見を聴くことができる。

3 各研究科から選出される委員は、各研究科所属の専任教員をもって充て、その任期は2年とする。

4 欠員を補充するため選出された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べるものとする。

- (1) 学位の授与

- (2) 大学院における教育及び研究の基本方針に関する事項
- (3) 大学院における教育研究組織の設置、廃止又は変更等の編成に関する事項
- (4) 大学院の教育内容、教育方法等の検証及び改善に関する事項

2 委員会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる次に掲げる大学院全体にわたる教育研究に関する基本的事項並びに各研究科間の連絡調整について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

- (1) 大学院学則並びに諸規程の制定及び重要な変更に関する事項
- (2) 入学試験に関する基本的事項
- (3) 学位論文の審査に関する基本的事項
- (4) 大学院担当教員の委嘱に関する基本的事項
- (5) 各研究科間の調整に関する事項
- (6) その他構成員から審議を求められた事項

3 学長は、委員会の意見を慎重に参酌しなければならない。

(招集権者及び議長)

第4条 委員会は、学長が招集し、その議長となる。

2 学長に事故があるときは、教育・研究担当の副学長又はその指名する構成員に代理させることができる。

3 学長は、構成員の4分の1以上の開催要求があったときは、委員会を招集しなければならない。

(招集通知)

第5条 学長は、委員会の招集にあたり日時、場所及び議案をあらかじめ構成員に通知しなければならない。

(決議)

第6条 委員会は、構成員の過半数の出席がなければこれを開くことができない。

2 審議事項を決議するには、出席委員の3分の2以上の同意をもって決する。

(報告)

第7条 委員会で審議された事項は、研究科委員長若しくは研究科長又は専攻主任から研究科委員会又は研究科教授会に報告しなければならない。

(議事録)

第8条 委員会の議事録は、教務部において作成し、次回の会議で確認を得たのち、議長が署名する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会及び全学教授会の議を経て、学長がその意見を聴き、これを行う。

附 則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

資料7：大学院研究科委員会規程

○大学院研究科委員会規程

昭和55年4月1日

制定

改正 昭和58年3月26日

昭和61年4月1日

平成8年4月1日

平成13年4月1日

平成16年4月1日

平成18年4月1日

平成27年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、駒澤大学大学院学則第35条に基づき、本大学院各研究科に置く研究科委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

2 法曹養成研究科（法科大学院）については、研究科教授会を置くものとし、規程は別に定める。

(構成)

第2条 委員会は、当該研究科の専任教員をもって構成する。

2 前項のほか、必要により兼担若しくは兼任の教員の出席を求めて意見を聴くことができる。

3 学長は、委員会に出席して意見を述べることができる。

4 委員会は、その審議の必要により、学長、副学長若しくは事務部門の部課長等の出席を求め意見を聴くことができる。

(審議事項)

第3条 委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び課程の修了
- (2) 研究科における教育研究の基本方針に関する事項
- (3) 研究科における教育課程及び組織の編成に関する事項
- (4) 研究科の教育研究予算計画に関する事項

- (5) 学位論文の審査に関する事項
 - (6) 研究科における教育内容、教育方法等の検証及び改善に関する事項
 - (7) 担当教員（兼担・兼任等を含む。）の委嘱に関する事項
- 2 委員会は、前項に規定するもののほか、学長、副学長、研究科委員長（以下「学長等」という。）がつかさどる、次に掲げる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- (1) 授業、研究指導及びその担当に関する事項
 - (2) 試験及び評価に関する事項
 - (3) 各専攻科間の連絡調整に関する事項
 - (4) 休学・復学・退学・除籍・転学等学生の身分に関する事項
 - (5) 科目等履修生及び研究生の受入れに関する事。
 - (6) 単位互換等並びに学生の外国への留学及び外国からの留学生の受入れに関する事。
 - (7) 学生の指導及び賞罰並びに奨学生等の推薦に関する事項
 - (8) 研究科委員長及び専攻主任の推薦並びに各種委員の選出に関する事項
 - (9) 大学院委員会に提案あるいは付託すべき事項
 - (10) その他構成員から審議を求められた事項
- 3 研究科委員会に意見を求める場合、また研究科委員会が意見を述べる場合は、書面若しくはその他適切な方法により、速やかに伝達を行わなければならない。
- 4 学長等は研究科委員会の意見を慎重に参酌しなければならない。
（招集権者及び議長）

第4条 委員会は、研究科委員長がこれを招集し、その議長となる。

- 2 研究科委員長に事故があるときは、その指名する委員会構成員に代理させることができる。
- 3 研究科委員長は、構成員の4分の1以上の請求があったときは、委員会を招集しなければならない。
（招集通知）

第5条 研究科委員長は、委員会の招集にあたり、その日時、場所及び議案をあらかじめ当該構成員に通知しなければならない。

（決議）

第6条 委員会は、構成員の過半数の出席がなければこれを開くことができない。

- 2 決議は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところ

による。ただし、大学院担当教員の選考に関する決議は当該構成員の3分の2以上の同意を必要とする。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、大学院委員会及び全学教授会の議を経て、学長がその意見を聴き、これを行う。

附 則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

資料 8 : 大学院人事委員会規程

○大学院人事委員会規程

昭和48年10月20日

制定

改正 昭和55年12月3日

昭和61年4月1日

平成5年9月9日

平成16年4月1日

平成25年4月1日

平成27年4月1日

(設置及び目的)

第1条 本学大学院に人事委員会（以下「委員会」という。）を置き、大学院の授業及び研究指導を担当する教員の委嘱等について、その調整を行うことを目的とする。

(構成員)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者で構成する。

- (1) 学長
- (2) 各副学長
- (3) 各研究科委員長及び研究科長
- (4) 各専攻から選出された委員 1人

2 各専攻から選出された委員の任期は、2か年とする。ただし、再任を妨げない。

3 欠員を補充するために選出された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(提案の責任者)

第3条 提案の責任者は、各研究科委員長とする。

2 各研究科委員長は、当該教員の学歴、職歴、教育研究上の業績並びに社会的活動等に関する資料及び審査委員会の報告等を資料として提出するものとする。

3 法曹養成研究科（法科大学院）の人事については、研究科長から報告資料を提出し、調整を経るものとする。

4 新設の研究科若しくは専攻及び課程等に関する人事については、認可されたときに当該責任者（準備委員長等）から資料を提出し、調整を経るものとする。

(招集及び定足数)

第4条 委員会は、学長が必要に応じて招集し、その議長となる。

2 学長に事故があるときは、副学長又はその指名する大学院人事委員会の構成員に代理させることができる。

3 委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければこれを開くことができない。

(議事)

第5条 委員会における調整は、出席構成員の一致した見解をもって、その決定とする。

(事務の主管)

第6条 委員会の事務主管は、教務部長とする。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、大学院委員会及び全学教授会の議を経て、学長がその意見を聴き、これを行う。

附 則

この規程は、昭和48年10月20日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年9月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

資料9：大学院担当教員の委嘱に関する規程

○大学院担当教員の委嘱に関する規程

昭和48年10月20日

制定

改正 昭和56年1月14日

昭和61年4月1日

平成元年4月1日

平成元年6月1日

平成2年4月1日

平成16年4月1日

平成19年4月1日

平成27年4月1日

(目的)

第1条 本大学大学院の授業を担当する教員の資格審査・委嘱については、この規程に定めるところによる。ただし、法科大学院専門職学位課程の授業を担当する教員の委嘱に関する規程は、別に定める。

(修士課程担当教員の資格)

第2条 修士課程を担当する教員は、本大学の専任教員のうち次の一に該当し、かつ、その担当する専門分野に関し高度の教育研究上の指導能力があると認められる者とする。

- (1) 博士の学位を有し、研究上の業績を有する者
- (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
- (3) 特定の専門分野について高度の技術・技能を有する者
- (4) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者

第3条 削除

(博士後期課程担当教員の資格)

第4条 博士後期課程を担当する教員は、本大学の専任教員のうち次の一に該当し、かつ、その担当する専門分野に関し、極めて高度の教育研究上の指導能力があると認められる者とする。

- (1) 博士の学位を有し、研究上の顕著な業績を有する者
- (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者

(3) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者

(資格審査)

第5条 大学院の授業を担当する教員は、第2条及び前条に規定する資格を有する者のなかから研究科委員会が選考し、審査する。

(審査の発議)

第6条 審査の発議は、当該研究科委員長とする。

(審査委員会)

第7条 当該研究科委員会に審査委員会をおく。

2 審査委員会は、当該研究科委員会が推薦した主査1人、副査2人以上をもって構成する。

3 審査委員会は、審査の結果を当該研究科委員長に報告しなければならない。

(委嘱)

第8条 前条の審査の結果に基づき、当該研究科委員会並びに大学院人事委員会の議を経て、学長がこれを委嘱する。

(兼担、兼任及び客員教授の委嘱)

第9条 大学院の授業を担当する兼担及び兼任の教員並びに客員教授の委嘱についてもこの規程を準用する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、大学院委員会及び全学教授会の議を経て、学長がその意見を聴き、これを行う。

(内規)

第11条 研究科(専攻)は、資格審査の基準について内規を設けることができる。

附 則

この規程は、昭和48年10月20日から施行する。

附 則

1 この規程は、昭和56年2月1日から施行する。

2 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て、全学教授会との調整を経なければならない。(昭和61年4月1日削除)

附 則

この規程は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。